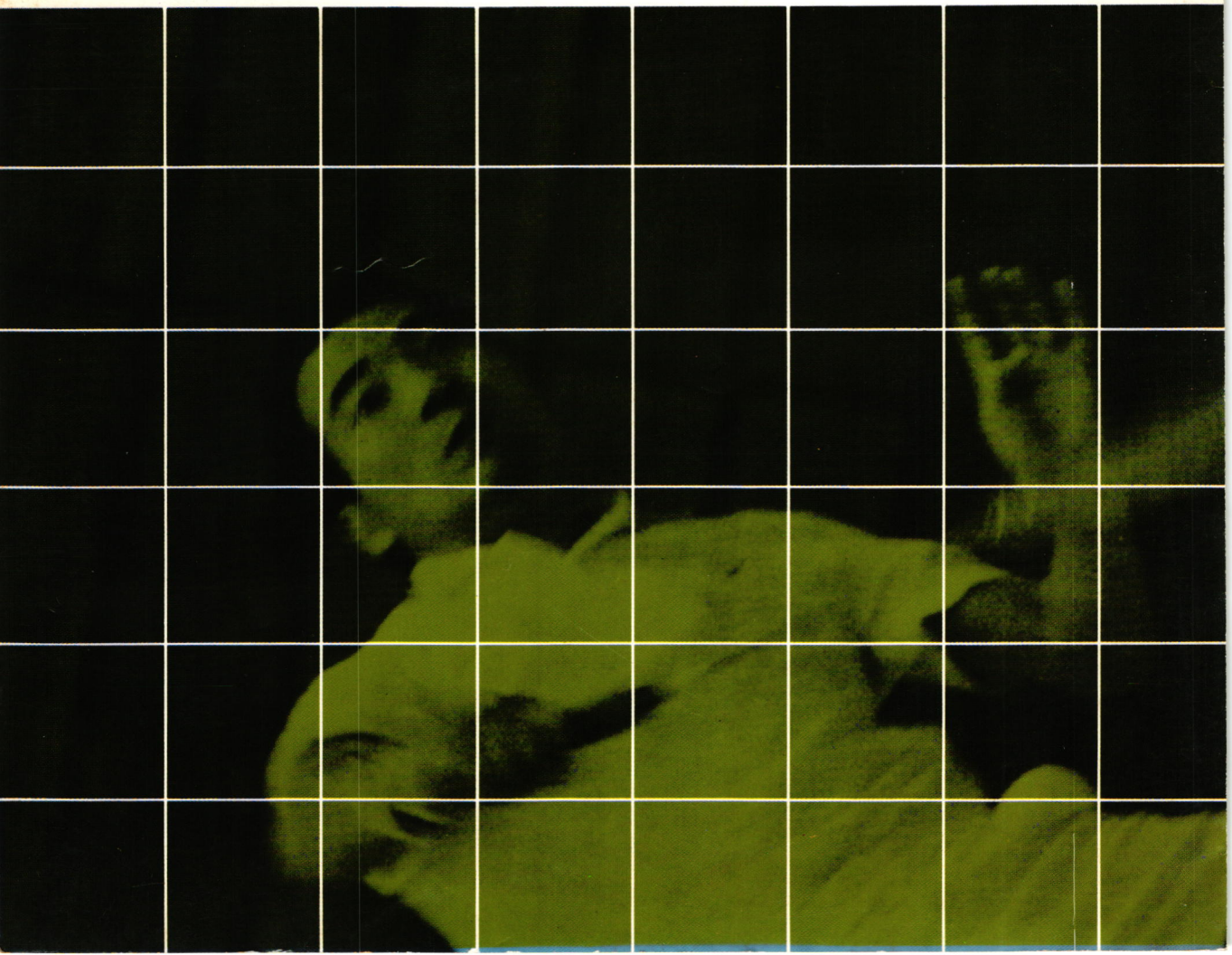
昭和44年12月23日第3種郵便物認可　昭和52年10月15日発行（毎月1回15日発行　第9巻第10号）

バドミントン 10

日本バドミントン協会　The Badminton World No.96　1977



ラケットショップ元町

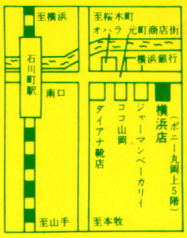
●渋谷店



渋谷区渋谷1−25−6 〒150

☎03(400)7390

●横浜店



横浜市中区元町5−203 〒231

元町スカイビル5階

☎045(651)2020

若さが武器よ!!
ルーツなんか、
気にしない。



——第20回全日本社会人選手権大会詳報——

土田、悲願の初優勝 …… 2
飯野〝銭谷時代〟へ待ったの大金星

湯木、五年連続五度目の〝女王〟 …… 4
西尾, 松田が健闘して上位進出

栂野尾・飯野、破壊力で圧倒 …… 6
強打・巧守の好試合が相つぐ

徳田・高田、完璧な初優勝 …… 8
安定した試合運びで2位以下を引き離す

ミックスは池田夫妻が初優勝 …… 10
30歳単は鈴木、複は森谷・星野

40歳単は元田、複は花岡・藤川 …… 11
50歳単は斎藤, 複は柳田・平田

新・ガッツ小島の体当り実戦教室⑥ —— 小島一平

〝飛躍の年〟大学四年 …… 12

エツコのバドミントン・ライフ⑤ —— 栂野尾悦子

長島選手と同じことを!! …… 14

われらのクラブ⑥ —— 渋谷バードクラブ

昼食会が楽しくて …… 28

——第16回全日本教職員選手権大会詳報——

和歌山、底力をみせ優勝 …… 30

東京6年ぶりの栄冠 …… 31

新人舛田、ベテラン関を降す …… 32

国体のホープ松田が圧勝 …… 33

山本・米山が初優勝 …… 33

功刀の好リードで栄誉 …… 34

30歳は原が単複を制す …… 34

◆第3回全日本男子オールスターダブルス'77

飯野・土田、夏を制す …… 36

◆日本対カナダ国際バドミントン親善大会

日本、カナダを圧倒 …… 37

◎〝友好第一〟で親善／どうなる日中大会／27

◎ヨーロッパ情報／38

◎編集室から／お知らせ／40

☆グラフ——全日本社会人選手権から

◇表紙デザイン・構成＝野間デザイン室／表紙・本文写真＝赤星三樹(使用カメラ・レンズ, アサヒペンタックスMX SMC-P-M 50/1.4)

◇今月の表紙＝全日本社会人30歳単で3度目の優勝をした**鈴木勝之選手**(三菱重工横浜造船所)

第20回全日本社会人バドミントン選手権大会 ●男子シングルス

真岡市 9.15～18

土田、悲願の初優勝

飯野〝銭谷時代〟へ待ったの大金星

第20回全日本社会人バドミントン選手権大会は、9月15日から4日間、栃木県真岡市において盛大に開催された。

大会最終日には、東南アジアでのABC会議の帰途から立ち寄った、国際バドミントン連盟（IBF）会長のモーリン氏（スウェーデン）が熱心に観戦され、入賞者に祝福を送っていた。

◆一般男子シングルス

▽5回戦

銭谷欽治（東京） 2―1 西村龍夫（千葉）

鈴木　裕（新潟） 2―0 谷口　寛（愛知）

飯野佳孝（埼玉） 2―0 遠藤好男（北海道）

田所光男（東京） 2―0 宇治　収（和歌山）

尾崎幹雄（東京） 2―0 笠井教行（神奈川）

中井基夫（東京） 2―0 出石　勉（鳥取）

栂野尾昌一（東京） 2―1 小島一平（神奈川）

土田証雄（東京） 2―0 九原正敏（北海道）

▽準々決勝

銭谷	2	15―3	15―1	0	鈴木
飯野	2	15―3	15―1	0	田所
尾崎	2	15―11	15―12	0	中井
土田	2	15―12	8―15	15―1	1	栂野尾

▽準決勝

飯野	2	15―6	15―7	17―18	1	銭谷
土田	2	15―9	15―6	0	尾崎

▽決勝

土田	2	15―10	15―8	0	飯野

（土田は初優勝）

〝攻撃は最大の防禦〟

一昨年のこの大会で秋山真男（今大会は不参加）から敗北を喫して以来、国内の試合では連勝を続けていた銭谷に、飯野が堂々と矢のようなスマッシュで土をつけるという番狂わせを演じた。

この日の銭谷は、朝一番に始まった5回戦でも、西村の攻撃に手を焼きファイナルゲームを経て準決勝へ進出。いつもの速い攻撃、破壊力あるスマッシュが影をひそめ、銭谷らしからぬプレーに終始していた。

しかし、銭谷不調を割り引いても、飯野の爆発的なスマッシュのスピード、ネット前への出足は大会ごとにその威力を増しており、今回の勝利はその伸長度を見せつけたものだった。

1ゲーム目から飯野は積極的に攻撃を仕掛け、13オールのセッティングにも先手を取って、スマッシュを両サイドに決め一気に4―0としたが、ここから銭谷は慎重な配球から、絶妙なレシーブとネットプレーで、辛うじて逆転に成功した。

が、この日の銭谷の〝ファイト〟はここまでだった。

2ゲーム目からは、飯野の攻撃に一段とスピードが加わり、両サイドへ角度あるクロススマッシュが絵のように決まりだした。銭谷がよくリターンした球も、ネット前の高い打点からスピンの効いたヘアピンを落とし、中間に上がったシャトルを叩くというパターンに徹して、遂に銭谷を押し切ってしまった。

飯野の強気な判断が〝攻撃は最大の防禦なり〟を如実に示してくれた第一の勝因だろう。

スピードの闘い

前日〝打倒銭谷〟を果たし、意気あがる飯野と、ともに初優勝を狙う土田の対戦となった決勝は激しい打ち合いが予想された。

1ゲーム目、中盤の大切な場面で飯野はサービスをサイドアウトし、逆に土田のサービスを2本見逃がして挽回の機を逸してしまった。それまで互角の攻撃を見せていただけに、このサービスの明暗は、大きく展開を左右。飯野は次第に、スマッシュを叩き込む回数が少なくなり、ネットへの出足も、前日のキレが見られぬままアッサリと第1ゲームを奪われてしまった。

初優勝へやや消極的な動きを繰り返す飯野に対し、土田は気合を満面に表わし、熱のこもった動きで飯野を圧倒した。

第2ゲームも中盤まで互角のラリーだったが、ここでまた飯野のサービスミスが出て、土田はチャンスとばかりにスマッシュをクロスに決めて点差を広げ、第1ゲームと同じような経過をたどって栄冠を手中にした。

ベテラン健在、若手成長

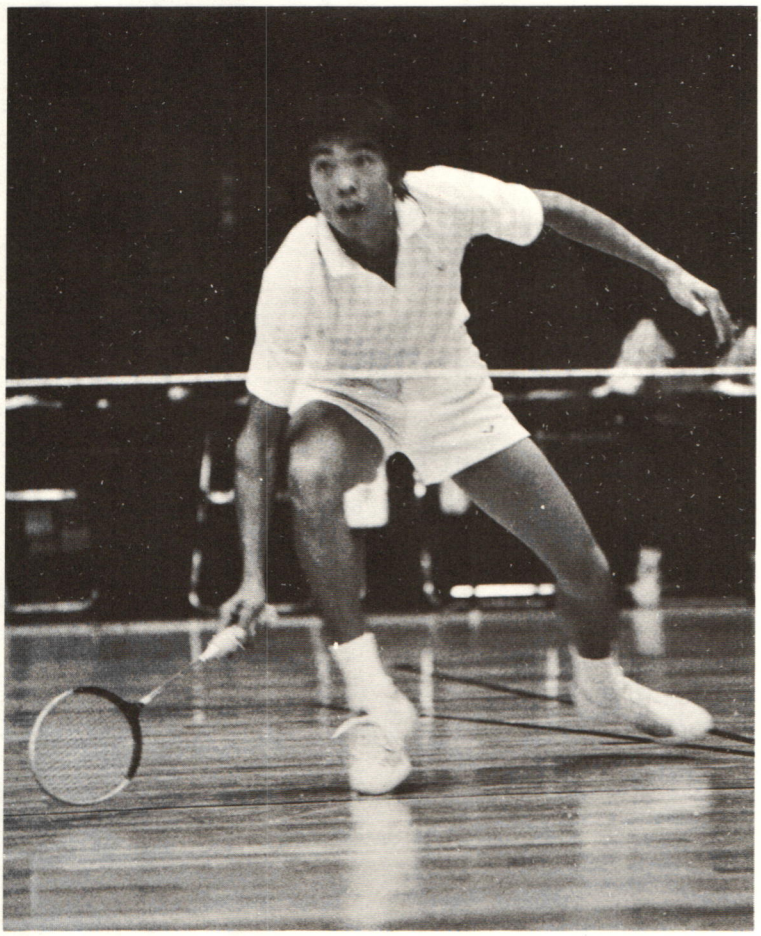
攻撃型の両者だけに長いラリーの応酬こそなかったが、きわどいネット前の攻防、全力で打つスマッシュは圧巻だった。

内容的には点差以上に接近していただけに、飯野に銭谷戦の積極性が欠けたのは残念だった。

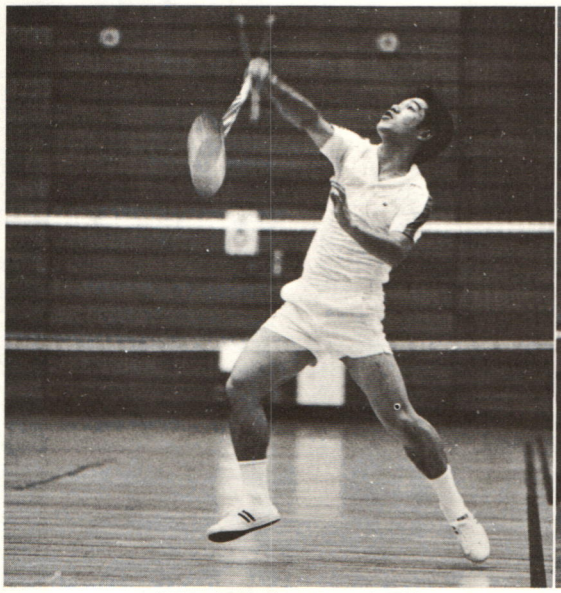
ベテラン梅野尾も、土田とファイナルを演じ、攻守にバランスのとれた完成されたプレーを見せ、これも大ベテラン、公式戦に九ヵ月振りで復帰した小島との対戦は延々1時間半に及ぶ大熱戦だった。

さすがに長いブランクのためスピードに今一歩の感は拭えないが、シャトルに目が慣れるにしたがって発揮してくる、丁寧なラケットワーク、確実なフットワークは目を見張せるものがあった。

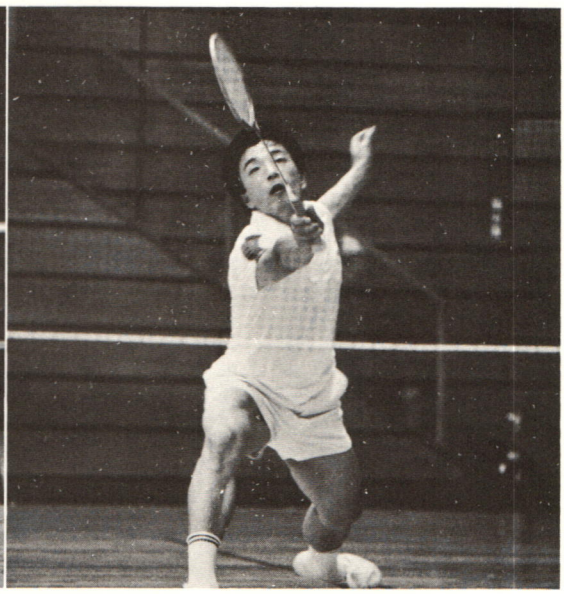
中井、辻、西村らの若手の台頭の中にあって〝小島復活〟ののろしが上げられ、これからの大会がより興味深いものになってくるようだ。



3位にとどまった銭谷



好調・飯野に押し切られた田所



土田に敗れた尾崎も3位

第20回全日本社会人バドミントン選手権大会

●女子シングルス

真岡市
9・15～18

湯木、五年連続五回目の〝女王〟

西尾、松田が健闘して上位進出

◆一般女子シングルス

▽3回戦

湯木博恵（東京） 2―0 秋本八代美（大阪）
牛田真由美（香川） 2―1 陣内裕子（埼玉）
谷美津代（大阪） 2―0 田所静子（香川）
徳田敦子（大阪） 2―0 池田茂子（東京）
高田幹子（大阪） 2―1 池田美加（東京）
西尾真理子（大阪） 2―0 石原英子（香川）
松田敦子（青森） 2―0 沼能久子（栃木）
古谷成代（奈良） 2―0 小林洋子（愛知）

▽準々決勝

湯　木　2（11―4、11―1）0　牛　田
徳　田　2（11―7、11―4）0　谷
西　尾　2（11―5、11―9）0　高　田
松　田　2（9―11、11―5、11―5）1　古　谷

▽準決勝

湯　木　2（11―5、11―7）0　徳　田
西　尾　2（11―3、11―8）0　松　田

▽決勝

湯　木　2（11―0、11―8）0　西　尾

（湯木は5年連続5度目）

〝女王の座〟ふたたび

今大会、女子シングルスの焦点は何といっても、実業団で初優勝を飾り、波に乗る徳田と、巻き返しを図る湯木の激突にあった。

しかし、雪辱を期す湯木の、完璧なコントロールと集中力の前に、徳田はあっさりカブトを脱がされてしまった。

序盤戦、互いに相手をさぐるようなクリアー、カットの応酬の中で、徳田の仕掛けがいつもより早い。互角のラリーから強打を放つが、思い出したように決まるだけで、先手先手をとろうとする強打は、無理を生んでミスが重なっていくばかり。勝負を急ごうとするのを見透すように、湯木のストロークは緩急自在に徳田を追いつめ、女王の貫禄をいやというほど見せつけた。

徳田が女王に土をつけた時は、ただ無心に拾いまくって、湯木が根負けしたところを襲いかかった。が、今度の対戦では、打ち気にはやってやや冷静さを欠いたのではないか。

女子のシングルスで一方的にスピードで押し切るのはむずかしい。まして相手は鉄壁のレシーブを誇る湯木である。今や、湯木の第一の後継者と目される徳田にしては、うかつな試合内容だった。

西尾、久々の上位

徳田へ雪辱を果たした湯木は、決勝でも完勝して〝女王の座〟に返り咲いた。

久々に決勝へ進出した西尾は、2ゲーム目こそ抵抗を試みたが、それまでの試合とは別人のように動きが重く、持ち味の〝粘り〟を発揮できなかった。

しかし、決勝までの西尾は、低迷していた期間の長かったことを埋めるように、一球一球、丁寧に球を継なぎ、西尾らしさを見せてくれた。若さあふれる高田、松田を破っての決勝進出は、自信を取り戻す明るい材料になるだろう。

一方、新人ながら秋本（幸）、沼能、古谷を下してベスト4へ勝ち残った松田は、青森国体の地元のホープであり、孤軍奮闘の戦いぶりは見事の一語。一服の清涼剤の感があった。

不振の選手めだつ

新人松田の活躍ぶりに反して、期待された選手の不振が多いのは寂しい。

恵まれた体格で、パワフルなバドミントンを持つ池田（美）、谷らが、シングルスになると、積極的なプレーが見られない。

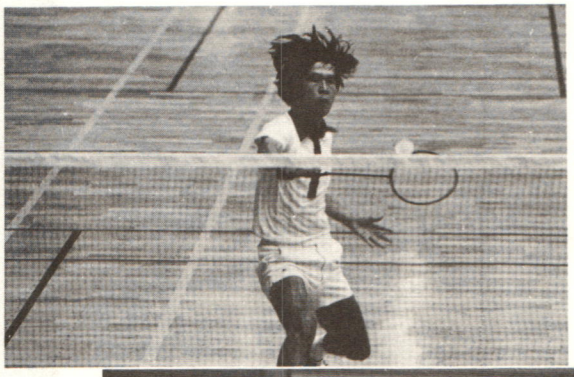
小柄な体でコート狭しとばかりに走るのが魅力な秋本（八）、秋本（幸）、千葉に元気がなかったのも残念だ。

年間の大会スケジュールが多く、その中でコンディションを整えるのは、容易ではないだろう。しかも社会人とあっては、練習も思うにまかせないだろう。

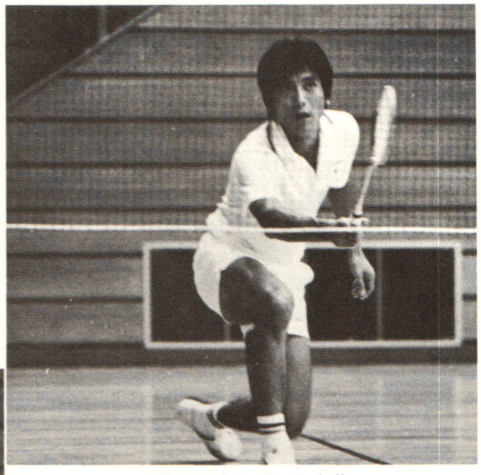
しかし出場する以上は、最高のコンディションで試合に臨み、負けても気持の良い汗を流してもらいたいものだ。



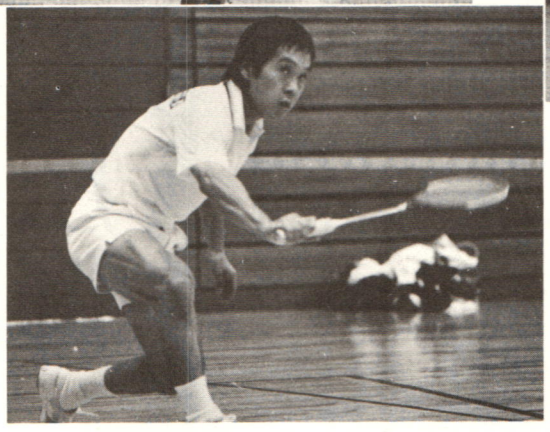
期待された徳田は湯木に雪辱され、3位



◀健闘した西村



▲若さでがんばった中井



▶じわじわ調子を上げたが…小島

第20回全日本社会人バドミントン選手権大会

●男子ダブルス

真岡市
9.15～18

栂野尾・飯野、破壊力で圧倒

強打・巧守の好試合が相つぐ

◆一般男子ダブルス

▽4回戦

今泉・牧野（富山） 2―0 丸山・大竹（新潟）

今井・斎藤（東京） 2―0 高真・出石（鳥取）

池田・尾崎（東京） 2―0 佐藤・佐藤（青森）

辻・大場（東京） 2―0 谷口・磯野（愛知）

栂野尾・飯野（東・埼） 2―0 山村・市村（東京）

銭谷・中井（東京） 2―0 中山・西村（東京）

山本・米山（和歌山） 2―1 米沢・米原（富山）

田所・土田（東京） 2―0 遠藤・池田（東京）

▽準々決勝

今泉・牧野 2（15―7, 15―11） 0 今井・斎藤

池田・尾崎 2（15―9, 15―5） 0 大場・辻

栂野尾・飯野 2（15―6, 18―16） 0 銭谷・中井

田所・土田 2（15―4, 15―3） 0 山本・米山

▽準決勝

池田・尾崎 2（15―5, 15―4） 0 今泉・牧野

栂野尾・飯野 2（15―7, 4―15, 15―9） 1 田所・土田

▽決勝

栂野尾・飯野 2（17―16, 15―8） 0 池田・尾崎

（栂野尾・飯野組は2年ぶり2度目）

"名手"池田、勇み足

ともに2度目の優勝を賭けて、決勝は起伏に富んだ激戦となった。

1ゲーム目は、栂野尾・飯野のスマッシュがさえにさえ、必死で粘ろうとする池田・尾崎を力で押し切った。が2ゲーム目に入ると、この日はスマッシュにいつもの当りが見られない尾崎に代って、池田が面白いようにスマッシュを決めはじめた。一球一球のコースと角度に変化をつけて、後衛で打ちまくる池田。そのスマッシュが栂野尾・飯野の逆をついて8―2と一気に主導権を握る。それまで当りの悪かった尾崎もようやくエンジンがかかり10―4、12―6。

池田・尾崎の猛攻に栂野尾・飯野は弱気になってレシーブ一方に追い込まれ、遂に14―8とゲームポイントを与えてしまった。しかし、1ゲーム先取の余裕があるのか、相手のサービス権を絶妙なプッシュでつぶし、池田組の拙攻にも助けられて、ジリジリと挽回の体勢を整えていった。

ゲームポイントから池田組は、あれほど当っていた池田が今度はネット際について、攻撃チャンスを生かせなくなり、従来のパターンへと固執するあまり、次第に〝積極性〟が〝アセリ〟へ移行していった。

こうなると、あとは追う者の強味である。栂野尾・飯野にも当所の鋭い攻撃が息を吹き返して、セッティングにもつれこんだ。

栂野尾組がまず2―0とリード。池田組も尾崎のロングサービスが2本成功して2―2。栂野尾組へ渡ったサービス権も、簡単にファーストサービスを落とし、次のラリーもネット前の浮いた球を池田が鋭くプッシュ。勢いがついたのか、決まったと思ったのか、まだインプレーのネットへ池田の体が触れ、栂野尾・飯野に凱歌が上がった。

名手池田の〝勇み足〟で結着がつくとは、あまりに皮肉な幕切れだった。

電電東京勢〝充実〟

田所・土田も実業団の不振を一気に晴らすように、エネルギッシュな動きを披露した。準々決勝では、教職員大会優勝の山本・米山をまったく寄せつけず一蹴。準決勝では小気味よい攻撃がリズムに乗って、栂野尾・飯野を防戦一方に追いやる場面もつくった。土田の強打とともに、田所も久しぶりに力強いプレーを取り戻していた。

ダブルス、シングルスともに、電電東京勢のこの大会に賭ける意気込みは素晴らしく、執念すら感じさせた。

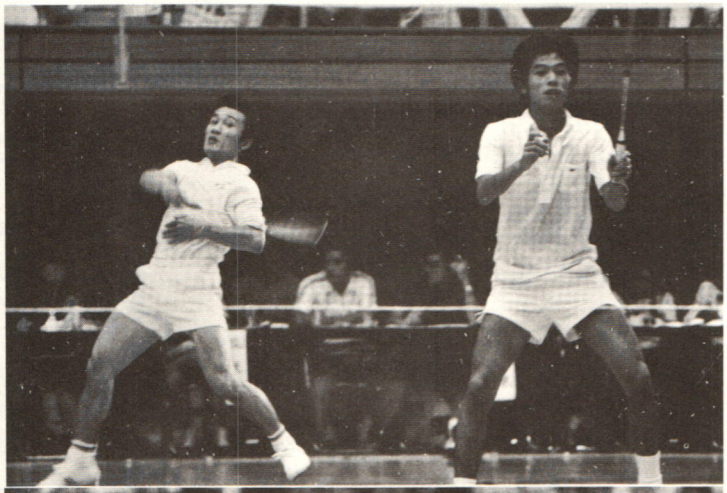
これとは対照的に、前回の覇者、今泉・牧野は、目を被いたいほどの不振だった。このダブルスの鍵を握る、今泉のレシーブ、前衛での処理がネット際に浮き、持ち味を出し切れないままに敗れ去った。牧野の独特のクロススマッシュも角度を欠き、有効打にならなかった。ベテランとはいえ、老け込むにはまだ早過ぎよう、一日も早く立ち直って〝健在〟ぶりを示してもらいたいものだ。

大型ペアも台頭

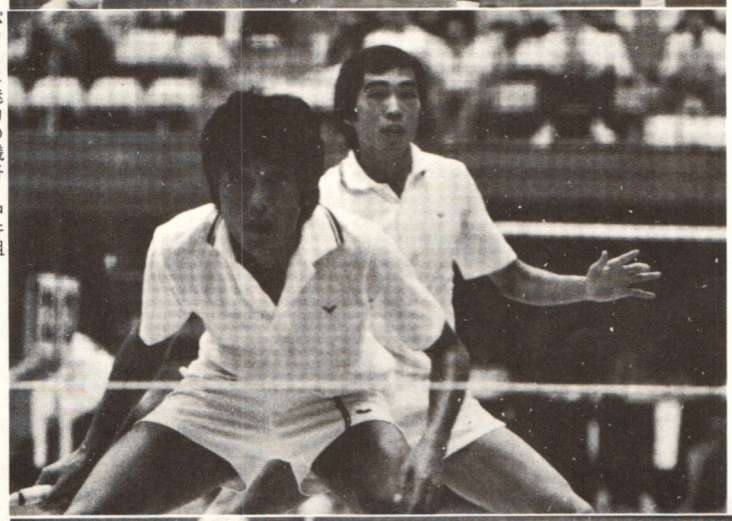
期待された大型新人でペアに組んだ、銭谷・中井、大場・辻もまずまずの活躍を見せた。

銭谷・中井は、梅野尾・飯野を相手に、派手な打ち合いで互角に渡り合った。中井の荒れ球が、よく相手のボディをついて苦しめたが、いったん歯車が狂うと、大型コンビにありがちなもろさが出てしまった。しかし、まだまだ上昇の余地が見込める楽しみなダブルスである。

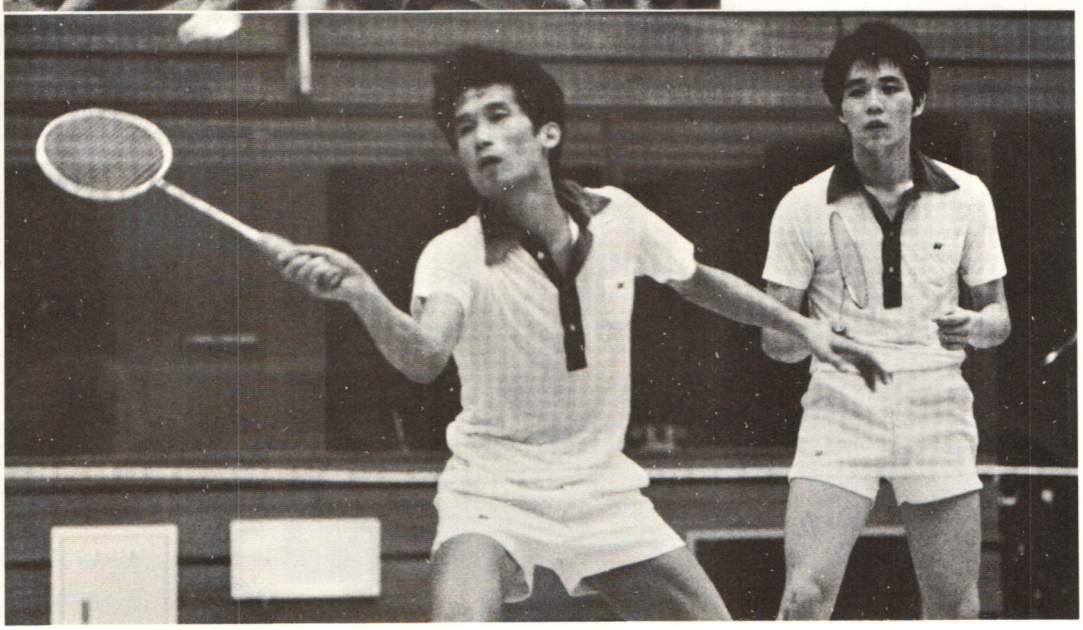
大場・辻も、3回戦で長谷川・舛田（石川）を、4回戦で谷口・磯野を撃破して、見事な破壊力を見せてくれた。特に、辻の〝ツボ〟にはまった際のジャンピングスマッシュには相当な力が秘められており、今後社会人の波にもまれての成長が期待される。



山本・米山組もベスト8に



パワーに魅力の銭谷・中井組



これからが楽しみの大場・辻組

第20回全日本社会人バドミントン選手権大会

●女子ダブルス

真岡市
9.15～18

徳田・高田、完璧な初優勝

安定した試合運びで2位以下を引き離す

◆一般女子ダブルス

▽3回戦

谷・秋本（大阪） 2—0 伊能・今田（東京）

栂野尾・坂本（東京） 2—0 藤井・増山（栃木）

徳田・高田（大阪） 2—0 宮本・高井（東京）

石原・田所（香川） 2—0 東海林・坂林（大阪）

湯木・池田（東京） 2—0 服部・沢田（滋賀）

西尾・秋本（大阪） 2—1 外崎・松田（青森）

沼能・日向野（栃木） 2—0 布上・中川（愛知）

池田・今田（東京） 2—1 古谷・佐伯（奈良）

▽準々決勝

栂野尾 坂本 2 — 1 谷 秋本幸

15—12 3—15 18—14

徳田 高田 2 — 0 石原 田所

15—0 15—10

西尾 秋本八 2 — 1 湯木 池田美

15—11 15—17 18—17

沼能 日向野 2 — 1 池田茂 今田

15—2 10—15 15—4

▽準決勝

徳田 高田 2 — 0 栂野尾 坂本

15—5 15—5

西尾 秋本八 2 — 0 沼能 日向野

15—12 15—6

▽決勝

徳田 高田 2 — 0 西尾 秋本八

15—2 15—3

（徳田・高田は初優勝）

徳田組、安定味増す

徳田・高田のまったく危げない優勝だった。攻守ともにバランスがとれ、しかもスピーディな動きは他を圧していた。

実業団に次ぐ連覇で、ユ杯の新しい戦力になりそうだ。

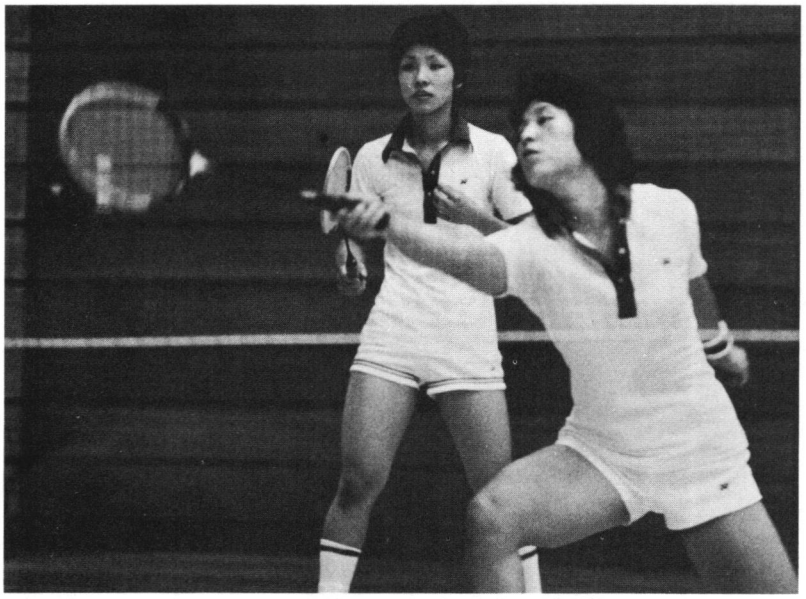
決勝で対戦した西尾・秋本八にも、手のうちを知った相手とはいえ、最小限のポイントしか許さず、気を緩めることなく攻めたあたりに成長の跡がうかがえた。全試合を通じて、相手に与えたポイントは1・2ゲームを合わせて10点以内。今大会に関する限り非の打ちどころがなかった。

現在のスピードに加えて、攻撃的なパターンが強固してくれば、オールジャパンでの対栂野尾・植野戦は白熱したものになるだろう。湯木・池田（美）に一時の破壊力がなくなってきただけに、その台頭は非常に楽しみだ。

二番手以下、伸び悩み

1、2位をサントリー勢が独占し、やや盛り上がりを欠いた中で、地元の声援を一身に浴びた沼能・日向野のコンビの健闘が光っていた。

特に際立った攻撃力はないが、実に執拗にシャトルを追いかけ、



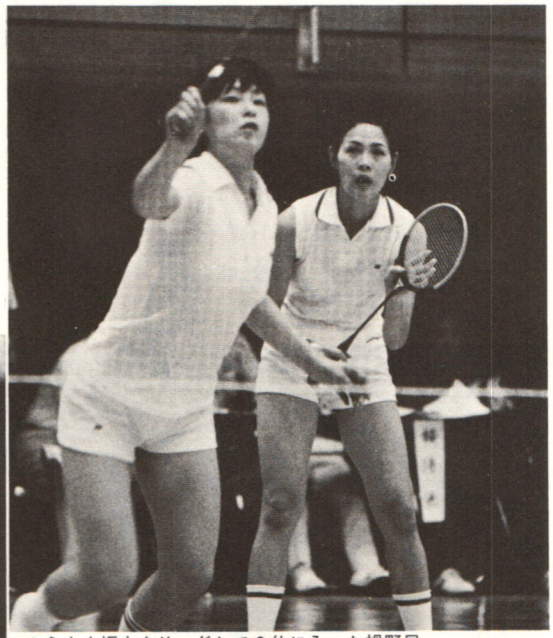
地元で健闘よく3位入賞の沼能・日向野組

長期戦に持ち込んで強味を発輝していた。

毎試合、パートナーが目まぐるしく代る栂野尾は、今大会は新人坂本と組んで登場。相変らず巧みな配球で、第一人者の実力を示した。初めとまどいがあった坂本も徐々に体がほぐれ、スマッシュレシーブに独特の沈む返球を繰り出し、栂野尾の期待に応えていた。しかし動作が重いため、前後の大きな揺さぶりに弱いという印象は免れなかった。



▲フレッシュコンビ外崎・松田組



▲うまく坂本をリードして3位に入った栂野尾

▼モロさが出て8どまりの湯木・池田組



第20回全日本社会人バドミントン選手権大会

●真岡市　9・15～18

ミックスは池田夫妻が初優勝
30歳単は鈴木、複は森谷・星野

◆混合ダブルス

▽準々決勝

栂野尾 栂野尾	2	15—6	18—17	0	中井 千葉
池田 池田茂	2	15—8	15—8	0	市村 田所
田所 今田	2	15—8	15—12	0	谷口 布上
日下 牛田	2	15—4	15—17	17—16	1	今井 池田美

▽準決勝

池田 池田	2	15—10	15—13	0	栂野尾 栂野尾
日下 牛田	2	15—7	17—18	15—8	1	田所 今田

▽決勝

池田 池田	2	15—9	6—15	15—7	1	日下 牛田

（池田夫妻は初優勝）

地元でジッとがまん

今までミックスに好成績のないのが不思議な、池田夫妻の初優勝だった。

「いつも試合中にカッカして、途中で投げ出していたんですが、今回は家内の地元なので辛抱したのがよかったのでしょう」

と試合後語っていたように、まさに勝因は辛抱だった。

これに対して日下・牛田は、準々、準決と相次いだファイナルから10分間の休憩で決勝を迎え、チャンスをものにできなかったのは不運としかいいようがない。日下の落ち着いた後衛、牛田の積極的な前衛は、ミックスの楽しさを十分に堪能させてくれた。

意外に、栂野尾夫妻が不調だったほかは、田所・今田、中井・千葉、今井・池田がんばって、実力伯仲のミックス戦だった。

◆30歳以上シングルス

▽準決勝

鈴木 （神奈川）	2	15—0	15—3	0	竹原 （大阪）
吉田 （福島）	2	15—10	15—4	2—15	1	増井 （三重）

▽決勝

鈴木	2	15—2	15—1	0	吉田

（鈴木は3年ぶり3度目）

◆30歳以上ダブルス

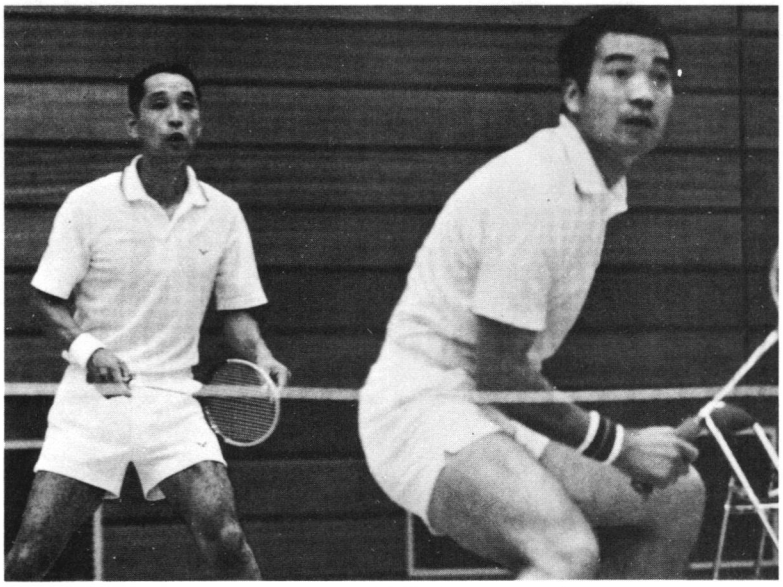
▽準決勝

森谷 星野 （東京）	2	15—4	15—3	0	島田 千葉 （東京）
杉田 鈴木 （神奈川）	2	15—3	15—10	0	吉田 高橋 （福島）

▽決勝

森谷 星野	2	15—12	17—16	0	杉田 鈴木

（森谷・星野は初優勝）



30歳ダブルス2位の杉田・鈴木組

40歳単は元田、複は花岡・藤川
50歳単は斎藤、複は柳田・平田

第20回全日本社会人バドミントン選手権大会　真岡市　9・15～18

体力、馬力は一般以上

シングルスは鈴木の独壇場だった。豊富なスタミナにモノをいわせ、決勝まで余裕のある勝ちっぷりだった。クラブ（三菱横浜）では先頭を切って走るというだけに（？）、独走のゴールインだった。

ダブルスでは、森谷・星野が一般並みの馬力を見せて決勝で懸命に粘る杉田・鈴木を振り切って栄冠を手中にした。

◆40歳以上シングルス

▽準決勝

元田（熊本）2（15—11 15—10）0 山本（高知）

浜中（愛媛）2（15—11 17—14 2—15）1 南（熊本）

▽決勝

元田 2（17—15 5—15 15—5）1 浜中

（元田は2年連続2度目）

◆40歳以上ダブルス

▽準決勝

花岡・藤川（東京）2（15—3 15—8 13—18）1 小川・鈴木（東京）

元田・南 2（15—10 15—6 7—15）1 浜中・山本（愛媛・高知）

▽決勝

花岡・藤川 2（15—11 5—15 15—9）1 元田・南

（花岡・藤川は初優勝）

◆50歳以上シングルス

▽準決勝

斎藤（東京）2（15—8 8—15 15—8）1 柳田（東京）

山城（愛知）2（15—10 15—3 8—15）1 紀田（京都）

▽決勝

斎藤 2（15—13 15—5）0 山城

（斎藤は初優勝）

◆50歳以上ダブルス

▽準決勝

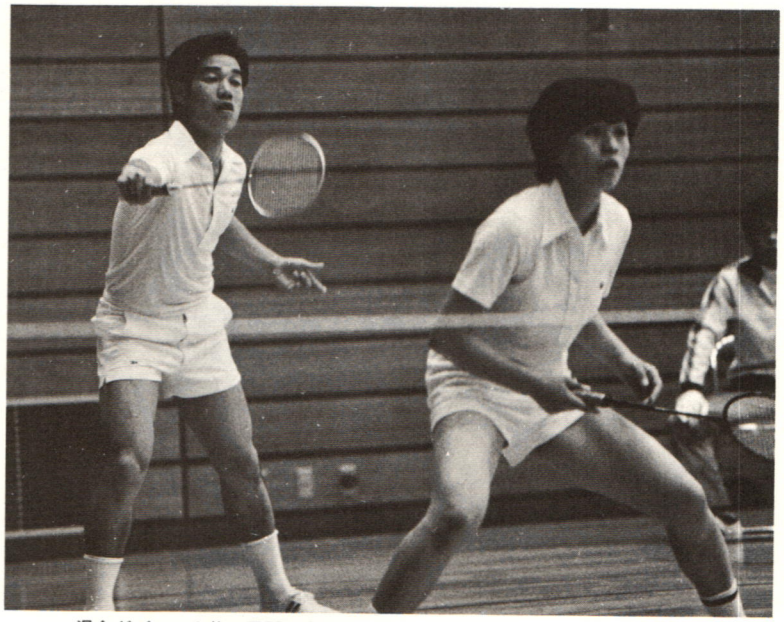
柳田・平田 2（15—7 5—15 15—11）1 紀田・曽根（京都）

衛藤・森脇（東京）2（15—6 15—10）0 井原・田村（鳥取）

▽決勝

柳田・平田 2（15—7 15—10）0 衛藤・森脇

（柳田・平田は初優勝）



混合ダブルス3位の田所・今田組

新ガッツ小島の体当り実戦教室 6

“飛躍の年” 大学四年

●小島一平

オールジャパン初優勝

大学生活最後の年を迎え、秋山氏が卒業され、今年はとにかく誰にも負けられないぞ、とまず第一に思った。そして最大の目標である、全日本に優勝するという闘志もまた旺盛だったのである。

秋山氏が三月からヨーロッパ遠征に旅立ち、私も来年こそはぜひ、外国へ行って力を試してみたいとつくづく思ったものである。そして秋山氏に対し多少のうらやましい気持があったこともまた否めなかった。

われわれの先輩の力が、どの程度通用するか非常に興味を持つと同時に、あとに残ったわれわれの励みになるような好成績をあげて↘

ほしいと祈ったものである。

それまでの全英選手権は、小宮好雄氏（トヨタ自工・立大卒）のベスト8が、日本選手の最高の成績だった。そして期待していた第一報、デンマーク・オープンの結果を見るや、驚きと落胆で声も出ないほどであった。なんと一回戦で敗退してしまったのである。まさか一回戦ではと思っていたのだが、世界の壁は厚いものだと感じさせられてしまった。

しかし、デンマーク・オープンの次に行われた、グラスゴーの招待試合で、秋山氏は持ち前の負けん気と冷静な判断力を発揮して決勝へ進出。惜しくも準優勝に終わったが、↖

もうわれわれの騒ぎようは大変なもので、これは全英の優勝も夢ではないぞと話し合っていた。

そして本番の〝全英選手権〟でも、秋山氏は声援に応えるように、苦戦の連続ながら、またしても準優勝という快挙を成し遂げたのである。

大歓迎の羽田空港に、秋山氏のその自信に満ちあふれた姿を見た時、今までライバルとしてやってきたにもかかわらず、何かもう足元にもおよばないほど遠くへ行ってしまったように感じてならなかった。

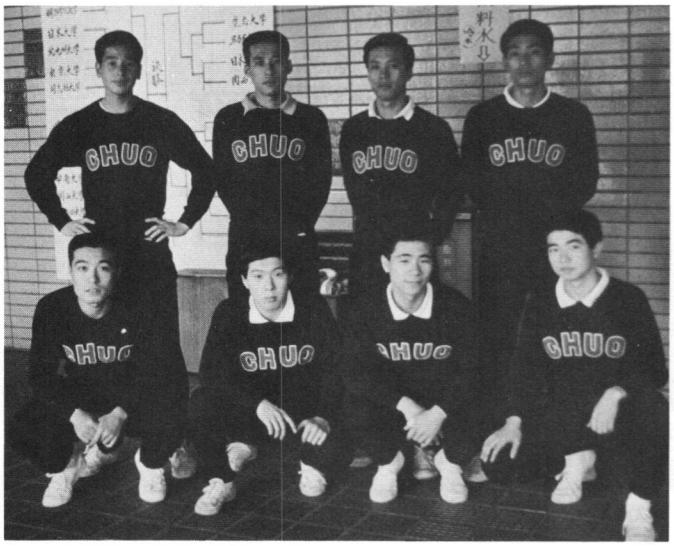
帰国後、一段落してすぐに練習してもらったのだが、まずプレーの変ったこと、ネット前に出るスピードの早いこと早いこと。惨敗も惨敗で、これは大変なことになった、どうしたら秋山氏を倒すことができるかなどは、考えもおもばないほどであった。

その年は無敗のまま、インカレでも団体、個人とも完全優勝し、いよいよオールジャパンを迎えることになった。

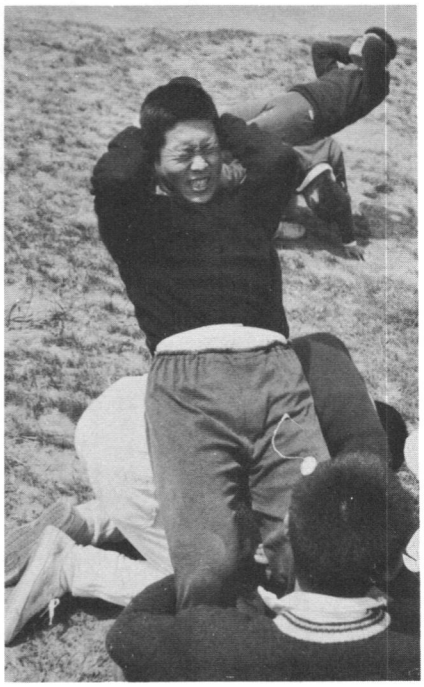
秋山氏とはその後、常に胸を貸してもらううちに、ポイントも徐々に多く取れるようになり、時にはゲームを取れることもあったが、力の差は歴然としていたのである。

しかしスピードのある人と練習したおかげ

学生三冠王となってチームメイトと



春の強化トレーニング



合宿の練習を終えて宿舎へ帰る



で、私も秋山氏のスピードについて行けるようになり、言葉ではいいつくせないほど感謝している。

いよいよオールジャパンでは、念願の決勝進出を果たし、秋山氏との対決となった。

その時は、勝つことなどまったく考える余裕がなく、とにかく1ゲームは取ろう、そして心臓が破れるまで、走って走って走りまくってやろうと思ったのである。

ゲームは激しい闘いとなり、お互いダブルスのパートナーではあったが、内に秘めた闘志はすさまじく、眼光には殺気さえも感じられるほど鋭いものがあった。

厳しいラリーの応酬で、それこそ息を抜くすき間などみじんもなく、試合が終わるまで勝つことなど考えもしなかったのだが、それがかえってよかったのか、結果は、打倒秋山氏を果たすことができた。しかし、なぜかすぐにはオールジャパン優勝の実感が持てず、試合の翌日になって初めて嬉しさがこみ上げてきたのである。

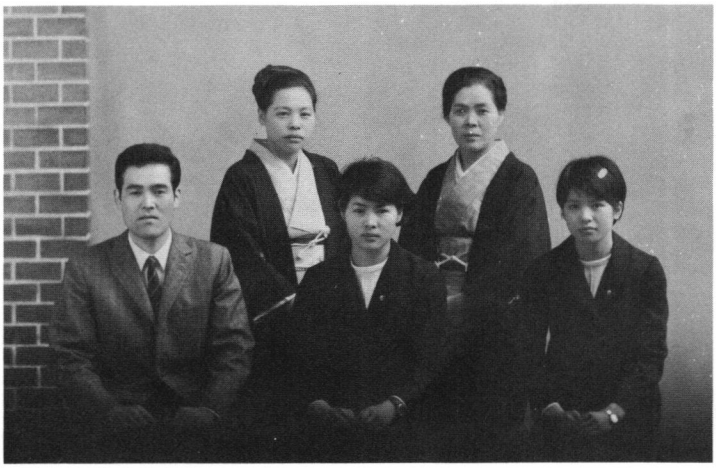
試合の前は興奮のあまり眠れぬ夜も何度かあり、まだまだ練習が足りないのではないかと思うことがたびたびで、ふとんに入ってからもじっとしておれず、ふとんを蹴って外へ飛び出し夜中に走り回ったことも思い出として残っている。

とにかく、これで世界二位の秋山氏に勝ったという自信は、私にとって非常に大きなプラスとなり、その後の海外遠征において好成績を収めることができたのも、秋山氏のおかげだったと今でも思っている。

エッコのバドミントン・ライフ⑤

長島選手と同じことを!!

栂野尾悦子



短大入学式のとき

「ちょっと練習を見てくるだけ…」と気軽に出かけたのに、帰った途端、新潟へ行きたいと言い出したものだから、両親もいささか面くらったようで、バドミントンのために、わざわざ遠い所まで行かなくても…、その上末っ子でわがまま放題だからどうなることだろう…と不安で仕方がなかったのでしょう。どうにか思いとどまらせようといろいろ説得にかかります。

田舎町のことなので、高校を卒業した女の子は、進学や就職に、県外に出ることはほとんどなく、お嫁に行くまでは、親のそばに置いておきたかったのでしょう。(その頃までの私も、いつかは親の勧めてくれる所へお嫁に行くだろうと思っていたほどです。)そんな両親を納得させてくれたのが兄でした。野球がやりたくて、立教大学(かの長島選手の…)を望んでいた兄は、織物業を継ぐために断念しなければならず、苦い思いをしたことがあるだけに、そんな夢を妹にかなえさせてやりたいと思ってくれたのです。父も母も、兄の助言にしぶしぶ承知してくれたのです。何一つ苦労を知らず、のほほんと育ってきた私が、初めての土地で、知らない人達の中で暮らすことになったのです。新しい岐点でした。

昭和43年4月11日、黒のスーツを身にまとい、私はこの日、新潟青陵女子短大の〝花の新一年生〟になったのです。と同時に、発足したばかりのバドミントン部の一員でもありました。部員は二名。

学園生活を始めて、まず驚ろいたことは、どこを見回しても女の子ばかりだということ。今まで共学だっただけに、何か異様な気分でしたが、それもいつの間にかなじんでしまいました。

当分の間は、相沢さんのお宅にお世話になることになったのですが、歌手・伊東ゆかりの大ファンで、夕食後、レコードをかけては、『小指の思い出』などを口ずさみながらチビチビやるお父さん。忙しい家事の合い間に、洋裁をされるお母さん。そして相沢さん。三人の静かな生活の中に、そそっかしくて、バ

カ笑いする私が一人加わったものだから、きっと大変だったにちがいありません。

お弁当は、お母さんの特製で、普通なら、ごはんとおかずが一緒に入るようにできているお弁当箱なのに、そこには、ごはんだけ、おかずは別にたっぷりの盛り合わせで、それでもお昼まで待ちきれなくって、パンを食べたりしたものです。ある時、新聞『新潟日報』に『二人は、カレーライスなら、三杯はペロリと食べてしまう』と書かれたことがありました。本当？と聞かれても、否定はできず、苦笑いでごまかしたものです。女の子としては、それはそれは恥かしいことですよね!!それも新聞でたくさんの人に知られてしまって…。でも私達はそんなこと〝へのカッパ〟。何よりも食べなきゃソンソン、体がもたないと思うほうが先だったのです。

それほどきつい練習でした。中学時代からその中で育ってきた相沢さんさえ、きついと言うのに、基礎練習だけを徹底してやってきた高校時代の私には、体づくりもできていず、何もかもが初めてで、どんな練習も目新しいものだらけだったのです。

もう9年も前のことですから、なかなか当時のことが思い出せず、押し入れの奥からバドミントン日誌を引っ張り出し、読み返してみると、面白いことが沢山あります。入学当時、私は60キロもあったと書いてあります。体ができていないから、大部分はいらない肉だったことがわかります、わき腹と、ひざの回りのぜい肉が一番必要ないから、まずとらなければと、よく先生から言われたことを思い出します。

四月の下旬、実績もないのに、ユーバー杯の合宿に参加できることになったのは、幸運というより他にないのですが、高木さん、天野さん、高橋さん、後藤さん、それに湯木さんと、全日本のトップをいくそうそうたるメンバーと練習できるなんて…。嬉しくて、ドキドキしていた私などは、準備体操のかけ声からリキんでいました。しかしみじめにも、実力は被い隠せず、ダブルスでは軽く全敗。シングルスにおいてはその比でなく、追い打ちをかけるように、手首を痛めて帰る羽目になったのです。

四月、五月の二ヵ月間、手首や肩の故障、足首の捻挫を何度もくり返し、体づくりがなっていないことを、いやというほどさらけ出してしまったのです。

阿部先生は、物理化学の専攻だけに、時おり、思いもよらぬことをやらされました。ある日、練習前になって急に、すぐ近くのお風呂へ行ってこいといわれたのです。それも湯舟にサッとつかるだけで飛び出てこいと。お風呂というと、鼻唄でも唄ってゆったり気分で入り、疲労回復の特効薬とばかり思っていたのに、こともあろうに練習前とは…。ところが、これは、ウォーミングアップと同じだといわれたのです。なるほど、筋肉も気分もほぐれてやる気十分になったまではよかったけれど、内容はいつもと同じ、ヘマばかり。ずいぶんあとになってこんな新聞記事に目が止まったのです。

『長島選手は、試合に臨む前にシャワーを浴びる』と。

ふむふむやはりそうか…と、大選手と一度は同じことをやったという何ともいえないニヤリとした気分でした。

さて、相沢さんから受けた最初の強烈な教訓は、「土曜、日曜は稼ぎどきだからね」。アルバイトで稼ぐわけじゃありません。練習が存分にやれる大事な二日間だということなのです。ハァ〜、なるほど、育ってきた環境でこうまで、心がけや意欲が違うものかと、ただ感心するばかりで、ふだんは、ふざけてばかりいても、いったん体育館に入ると、パートナーというよりも、まだまだ雲の上の人という尊敬にも似た気持がいつまでも続いていました。

（つづく）



初めての海外遠征・マレーシアでスヴェン・プリ選手と

カワサキラケット
河崎ラケット工業株式会社

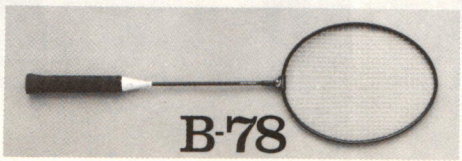
ドラマが始まる。



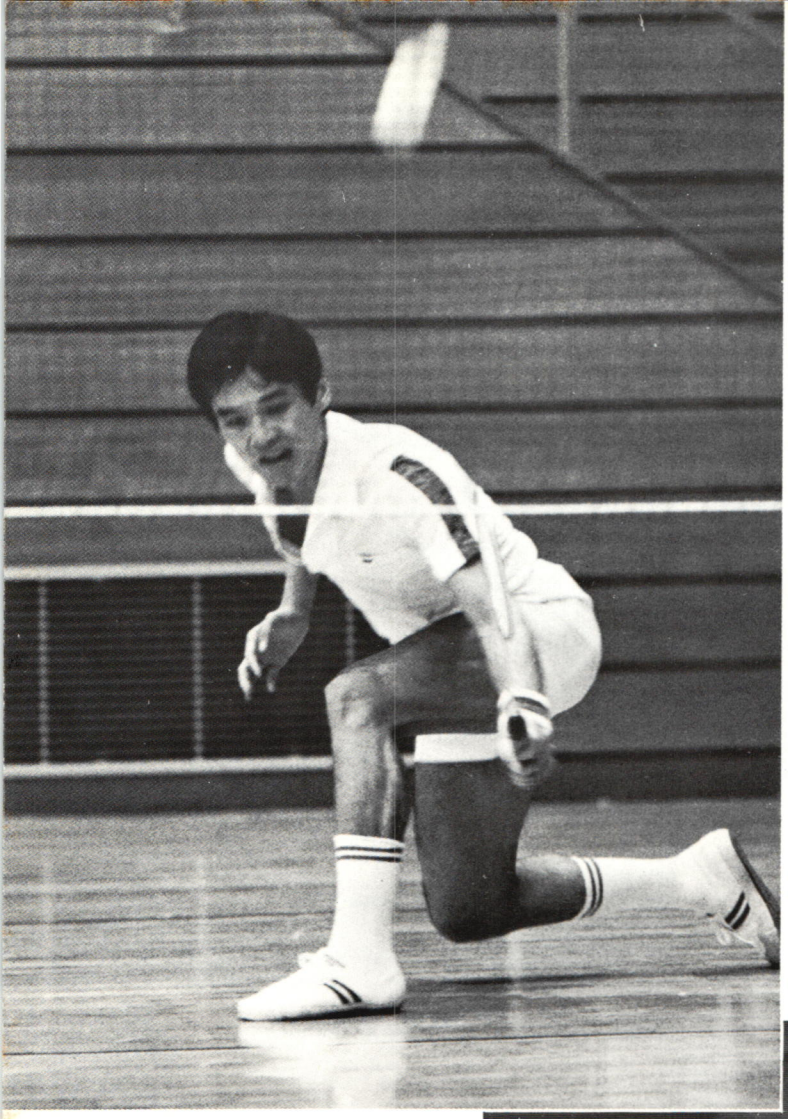
世界が燃える。

イギリス、デンマーク、インドネシア…
世界のコートで実力を発揮し、活躍するカワサキ。
数々の勝利のドラマを生み、
トッププレーヤに注目され続けています。

アルミ、クロームモリブデン、アルミ合金ダイカストを採用。
それぞれの特性を充分いかした軽く、弾力性豊かな新製品です。



No.B-78/セブンエイト/モスグリーン(アルミフレーム)
フレーム価格6,000円(ケース付)

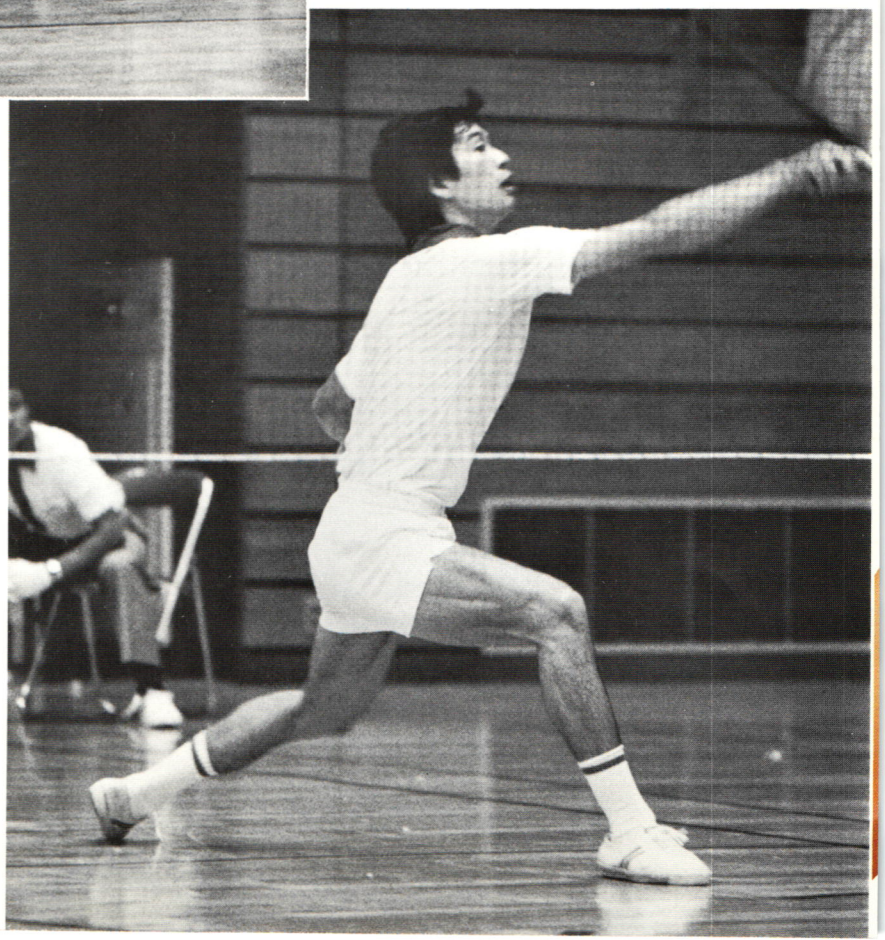


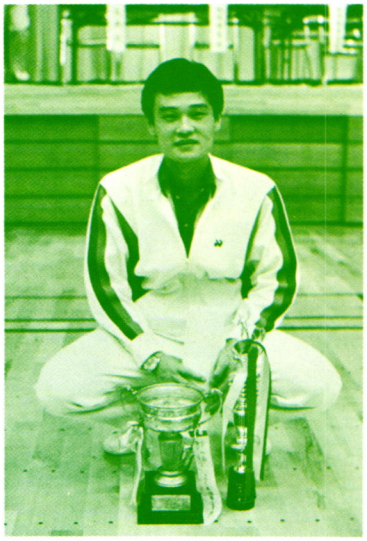
攻めてよし、守ってよしの土田

全日本社会人選手権から

土田、初の栄誉

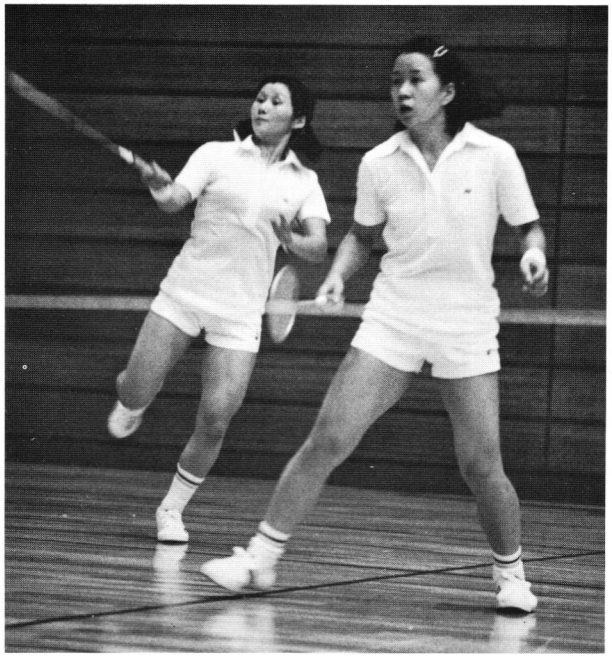
銭谷を強気で降した飯野



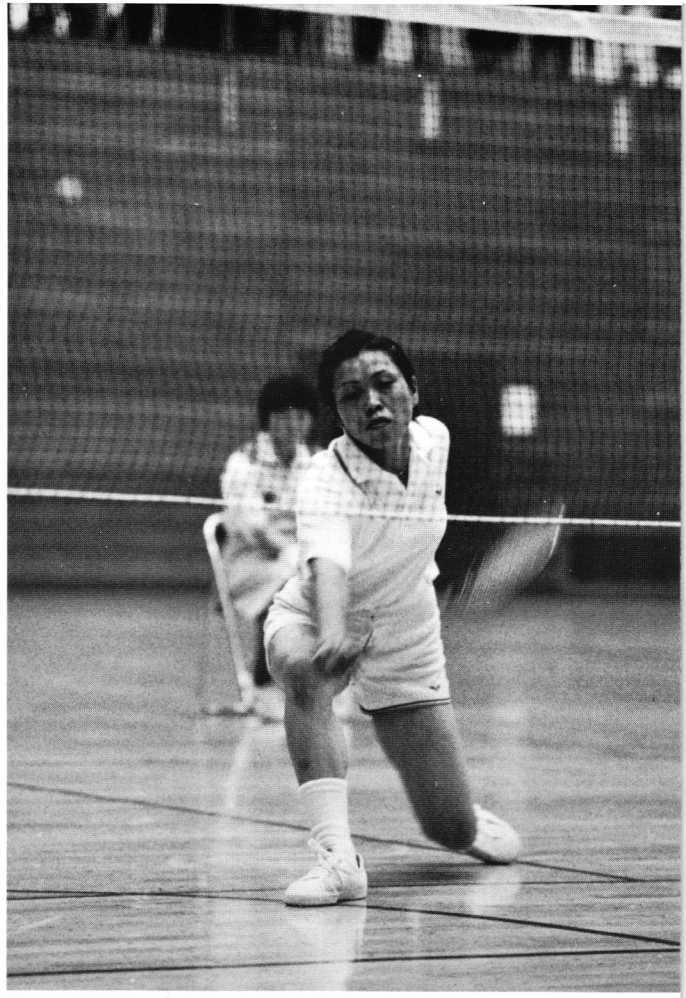


初優勝をとげてニッコリ

西尾・秋本(八)



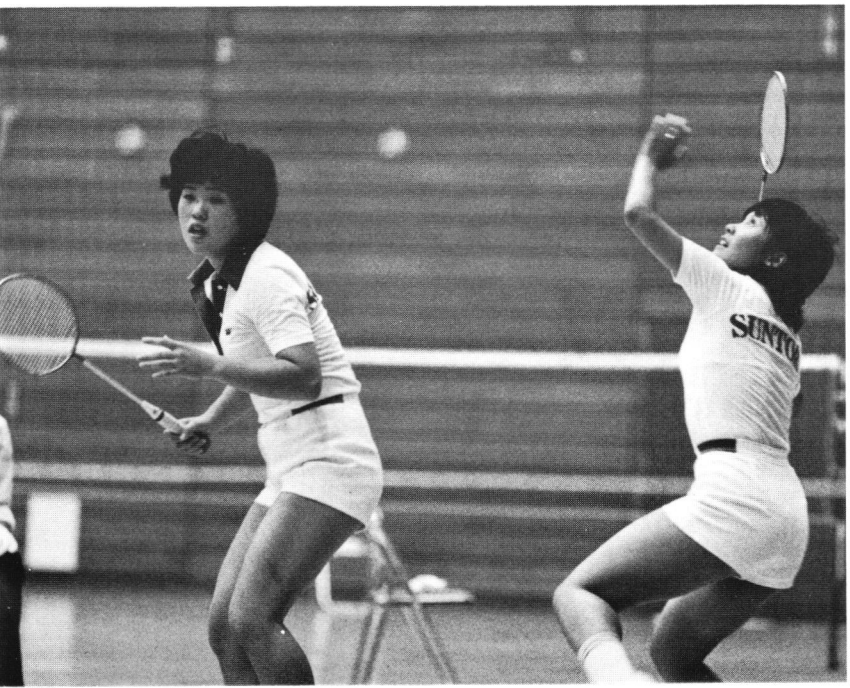
サントリー勢がんばる



〝復活〟した女王、表情にも自信が

湯木〝復活〟

いよいよ安定さを増した徳田・高田



準優勝は立派・西尾



carlton

New Badminton Racket



●PHOTO カーボニック・ブラック

●PHOTO ニュートーナメント



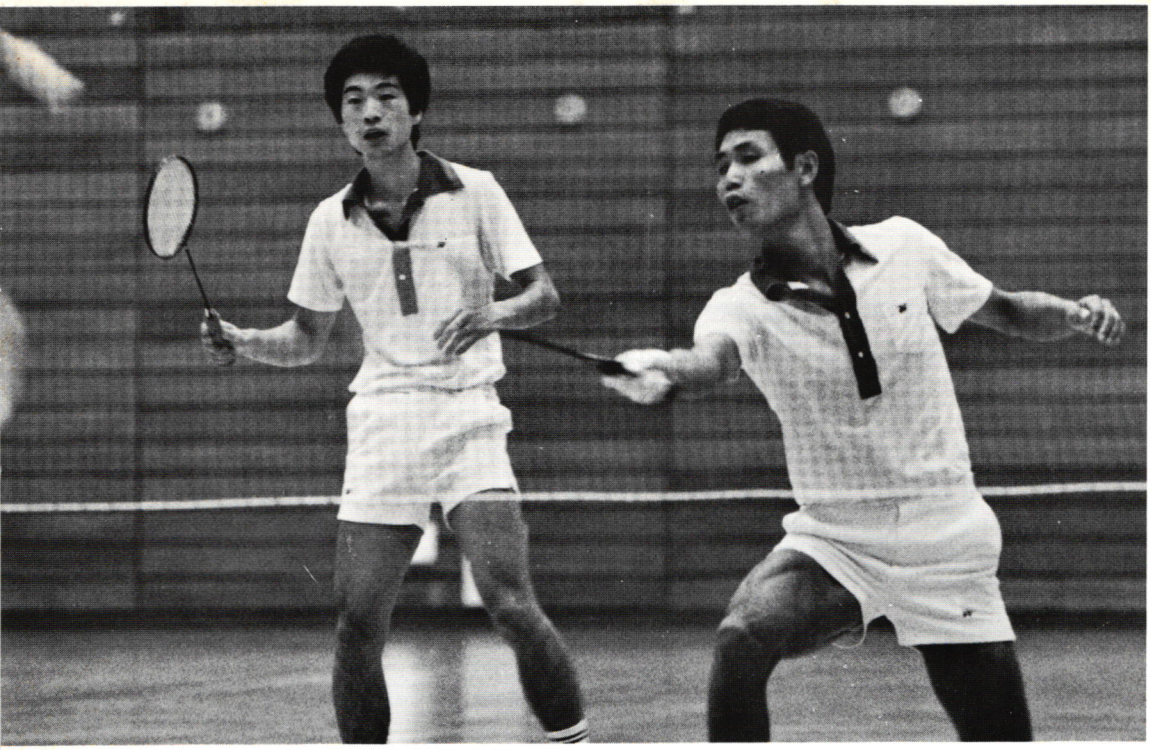
威力壮烈!

20世紀最後の素材といわれる理想の繊維カーボン。繊維に対して直角の方向に、驚ろくべき強さをもち●たわみに富む●するどい弾性とすばやい反発力を生む●しかも耐久性に強い……という最高の条件を備えています。

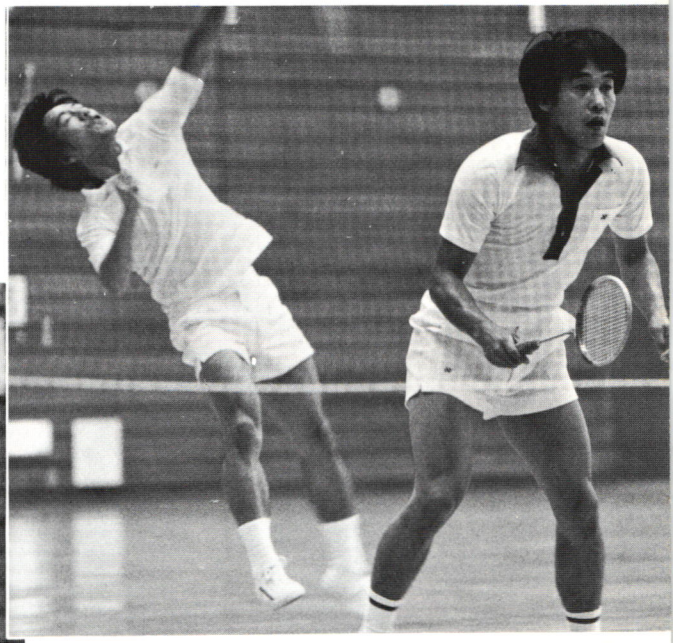
metro

総発売元 メトロレジャー株式会社 〒101東京都千代田区外神田5－6－4 ☎(03)833－3661(代)

スピードとパワーのぶつかりあい

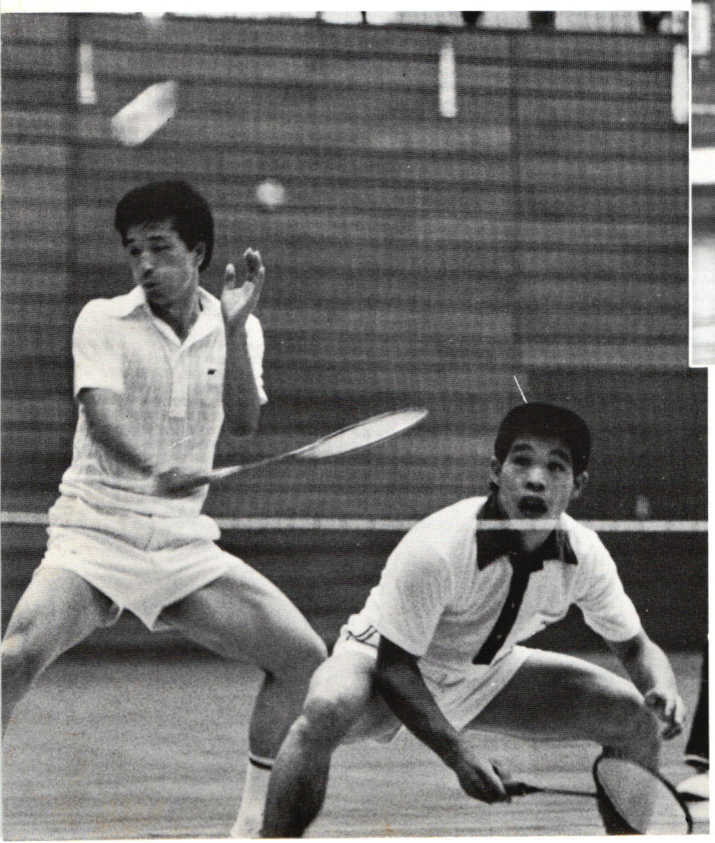


快調にとばす柵野尾・飯野

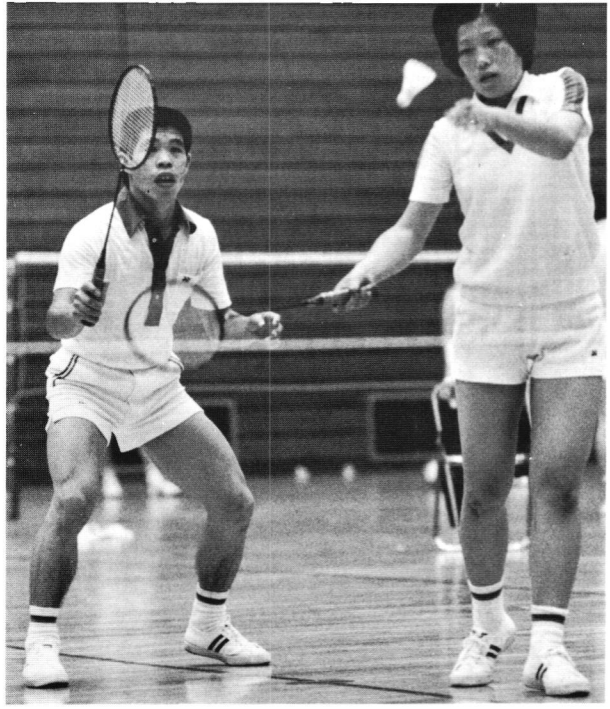


今泉けんめいのスマッシュ、前は牧野

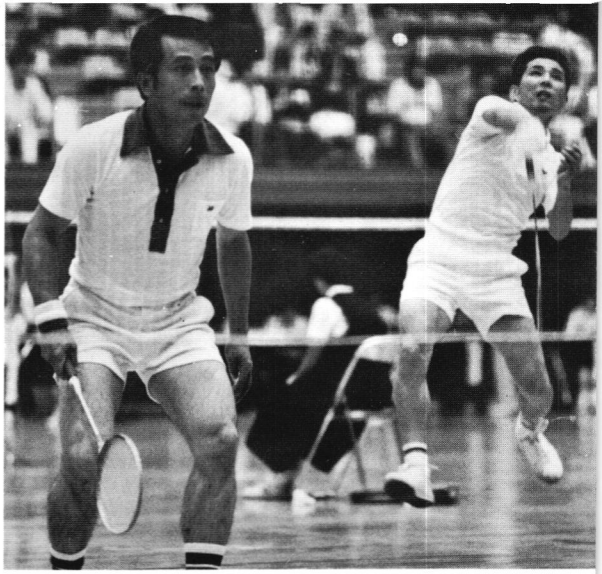
イキの合ったプレーをみせる池田・尾崎



ミックスはコンビネーションの勝負

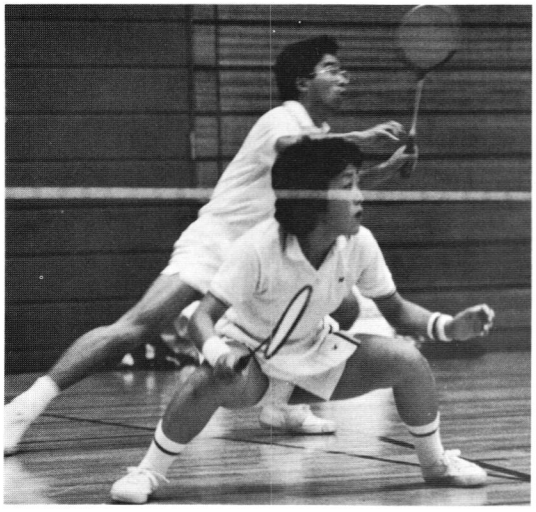


しんぼうが実を結んだ池田夫妻



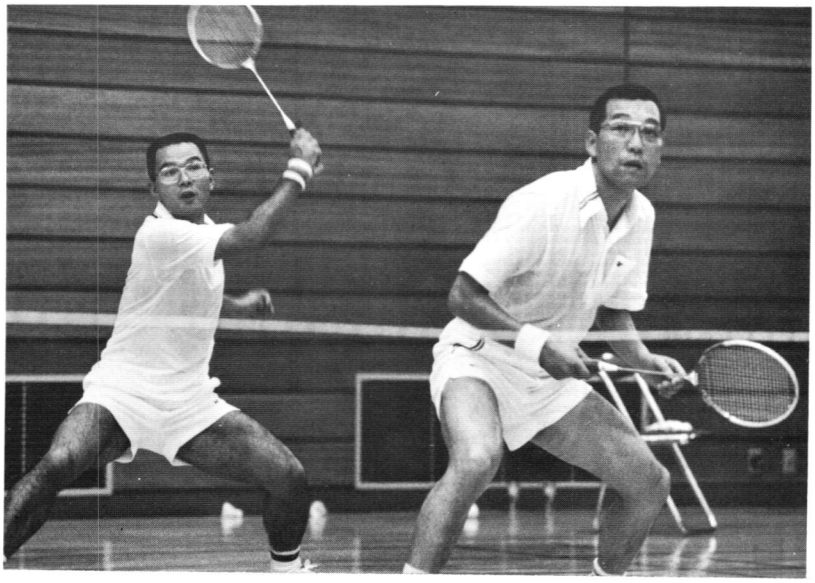
うまさは抜群の藤川・花岡(左)、40Dで優勝

年齢別も大熱戦



楽しいコンビをみせてくれた日下・牛田

馬力で押しまくる星野・森谷(右)に栄冠(30D)





from carlton England

1,000,000ダース

カールトン・ナイロンシャトルの年間生産量です。

ニュートーナメント

1個
¥280

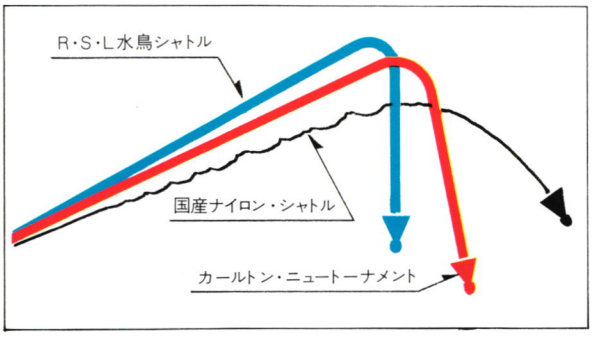


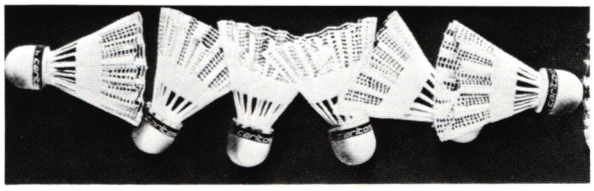


インターナショナル

1個
¥220

だから、こんなに安い価格で輸入品がお求めになれます。





ニュートーナメント：ターンオーバーがはやい。

左の図は、シャトルの飛行線を表わしたものです。カールトン・ニュートーナメントが水鳥シャトルの飛び方にいかに酷似しているか、おわかり頂けると思います。

しかも、国産品とは飛びが違います。

総発売元 メトロレジャー株式会社
〒101東京都千代田区外神田5－6－4 ☎(03)833－3661(代)

だから
シャトルコックならカールトン

ファッショナブル・スポーツ——バドミントン。

厳選された豊富さでお応えいたします。 BADMINTON

ファッション性とスポーツ性——この2つをより合わせ持つファッショナブル・スポーツーバドミントンの感覚を肌で感じにいらっしゃいませんか——！

色あざやかにそして機能性も豊かなウェアやバッグなど——バドミントンのすべてが常にフレッシュな状態でスタンバイ。

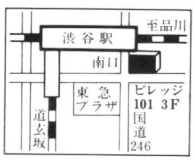
日本最大の専門店 ウインザー ラケットショップ。

毎月曜日定休・祝祭日を除く

渋谷店

東京都渋谷区桜ヶ丘町1-7(ビレッジ101ビル3階) TEL 03-464-9251~2 〒150

●営業時間／午前10時～午後7時30分





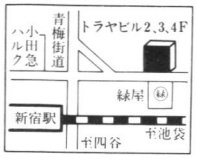


毎月曜日定休・祝祭日を除く

新宿店

東京都新宿区西新宿7-10-20(トラヤビル2,3,4階緑屋前) TEL 03-363-6848 〒160

●●●営業時間／午前10時～午後7時







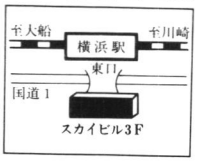
年中無休

横浜店

横浜市西区高島町2－1　横浜駅東口

(スカイビル3階) TEL 045-461-1785 〒220

●●●営業時間／午前10時～午後8時



WINDSOR RACKET SHOP



好評発売中

BADMINTON RACKET

スポーツシューズを始め、スポーティンググッズの幅広い分野で今や世界を独走するadidas®。そのスポーツを知りぬいたadidas®から、いよいよ、バドミントンラケットが待望久しいデビューです。素材の持ち味をくまなく生かした各パーツ。バドミントンを徹底科学した機能的なフォーム。もちろん一流プレーヤーの「ここをこうしたい」という熱望をすみずみに取り入れての登場です。パワーとテクニックを見事に両立させた最新鋭の1本1本。いち早く馴染むのがライバルを泣かせる秘訣。

バランスの良さ。なじむグリップ。この軽さ。デビューが待たれたadidas®の1本1本。

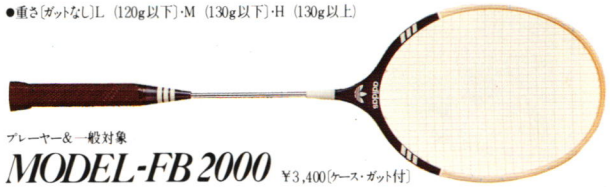




トッププレーヤー対象

MODEL-FB 1000 ¥5,400〔ケース付・ガット別〕

⊙テーパードシャフト先細・手元太でロングなシャフト、思いきり振りきれ、素晴しい球離れが特長です。⊙フレーム 柔軟性と剛性をあわせもった合板フレーム。ガットが張りやすく、同時にガット張りによる変形がないのが決め手です。素材は特に厳選された高級木質材。⊙グリップ 手にしっくりと馴染む高級牛皮グリップ。●グリップサイズG2(太)・G3(中)・G4(細)
●重さ〔ガットなし〕L (120g以下)・M (130g以下)・H (130g以上)



プレーヤー&一般対象

MODEL-FB 2000 ¥3,400〔ケース・ガット付〕

⊙ストレートスティールシャフト ⊙フレーム やはり強度と柔かさを兼ねそなえた合板フレーム。吟味された高級材質の堅さがラケットの変形を防ぎます ⊙グリップ 牛皮を使用し触感、密着感に優れています。●グリップサイズ G3のみ
●重さMのみ



一般&ビギナー対象

MODEL-FB 3000 ¥2,500〔ガット付〕

⊙ストレートスティールシャフト ⊙フレーム 丹念にセレクトされた木質素材の合板フレームで強度を確保しました。⊙グリップ グリップには手に馴染みの良い牛皮を使用 ●グリップサイズG3のみ ●重さMのみ

adidas®

MADE UNDER ADIDAS LICENSE

●お求めはadidas特約店で。

製造業者 KG 兼松江商株式会社 発売元 KSG 兼松スポーツ用品株式会社
〒532 大阪市淀川区木川東2-5-3 ☎06-305-1431
〒101 東京都千代田区内神田1-11-13(橋本ビル) ☎03-295-5611

SUPER RUSH

いま うわさの……



S-76 スーパーラッシュ

極細の特殊加工スチールテーパーシャフト使用。
反発力が一段と増し、抜群の攻撃力が生まれプレーヤーの持っている力を十二分に発揮出来るすばらしいパートナーが出現しました。

play with...

SunBatta

本誌別冊カレンダー

デザイン一新!!　予約申込み受付中

The Badminton World '78 Calendar

11月1日発行　　定価1000円（荷造送料200円）

毎年ご好評をいただいております本誌別冊カレンダーを今年も制作いたします。

一昨年はモノクロ、昨年はカラーで制作しましたが、今年はカラーの美しさとモノクロの迫力をかねそなえたすばらしいカレンダーをお届けします。

写真はモノクロを使用し、印刷は3色とし、デザイン効果をねらったものです。デザインは本誌表紙でおなじみの野間義剛さんです。

また、従来の金具綴じをあらため、アクリルリングによるタンバリン綴じを採用し、毎月ページを破ることなく一年間お使いいただけます。

大きさは本誌の四倍で、上半分が写真、下半分が日付となります。上質のアート紙に印刷し、丈夫な表紙をつけます。

収録選手は、国内にかぎらず、世界を代表するプレーヤーで、次の選手です。

1月＝梶野尾悦子・植野恵美子（ヨネックススポーツ・四条畷学園短大）
2月＝小島一平（ラケットショップ元町）
3月＝スヴェン・プリ、フレミング・デルフス（デンマーク）
4月＝土田証雄（日本電信電話公社）
5月＝ベント・フローマン、トーマス・キールストロム（スウェーデン）
6月＝池田信孝・梶野尾昌一（日本電信電話公社・ヨネックススポーツ）
7月＝チュン・チュン、ヨハン・ワジュディ（インドネシア）
8月＝徳田敦子・高田幹子（サントリー）
9月＝飯野佳孝（ヨネックススポーツ）
10月＝銭谷欽治（河崎ラケット）
11月＝長谷川博幸（中央大学）
12月＝湯木博恵（河崎ラケット）

発行日は11月1日で、定価は1000円（送料200円）です。ご希望の方は、はさみこみの振替用紙に必要事項を記入のうえ、通信欄に「カレンダー○部申込み」と明記して、代金（送料を添えて）をお近くの郵便局からお振り込みください。発行と同時にお送りいたします。

〒150　東京都渋谷区神南1—1—1　岸記念体育会館

バドミントン界編集部

●カナダ＝神奈川合同練習会

〝友好第一〟で親善

豪雨のなか多数のファンつめかける

ちょうど来日中のカナダチームを迎え、9月9日午後6時から三菱重工横浜造船所体育館において、〈カナダ＝神奈川合同練習会〉が行われた。

折りからの台風接近による豪雨のなか、熱心なファンがつめかけ、会場は親善のなかにも緊張感がただよっていた。

内藤安雄県協会副会長の歓迎のあいさつ、選手紹介にひき続き、2ゲームマッチで練習試合を行った。

男子は、イアン・ジョンソン対笠井教行（関東自動車工業）、パット・トライオン、ジョン・チック対小島一平、辻敏弘（ラケットショップ元町、ヨネックススポーツ）、パット・トライオン、イアン・ジョンソン対鈴木勝之、鎌田哲（三菱重工横浜造船所）の三試合が行われたが、いずれも1―1の引分けに終わり、〝友好第一〟となった。

女子は、ウェンディ・クラークソン、ジェーン・ヤングバーグ対杉田良子・遠藤美智子（日本コロムビア、関東自動車工業）、レスリー・ハリス対宮本小夜子（北辰電機製作所）、ウェンディ・クラークソン対佐藤正江（日立製作所戸塚工場）の三試合を行ったが、ダブルスは引き分け、シングルスは二敗という結果になった。

クラークソンの華麗なプレーはとくに印象深く、観客の拍手を浴びていた。また、カナダの男子選手は、非常に汗をかき、その汗に何度も足をとられるシーンが見られ、〝シューズも日本のものを使えばいいのに〟という声がファンの間で聞かれた。ちなみに、カナダ選手は全員、日本製のウェア、ラケットを使用していたが、シューズだけは自国のものをはいていた。

しかし、デンマークや東南アジアの選手に比べると、きまじめでけんめいにシャトルを追い、疲れを顔に出さずプレーしており、豪雨の中、足を運んだファンは、満足げに家路についた。

どうなる日中大会

スケジュール調整つかず

昨年まで毎年開かれていた、日中親善バドミントン競技会は、今年はわが国で開催の予定であるが、スケジュールがつかないでいる。

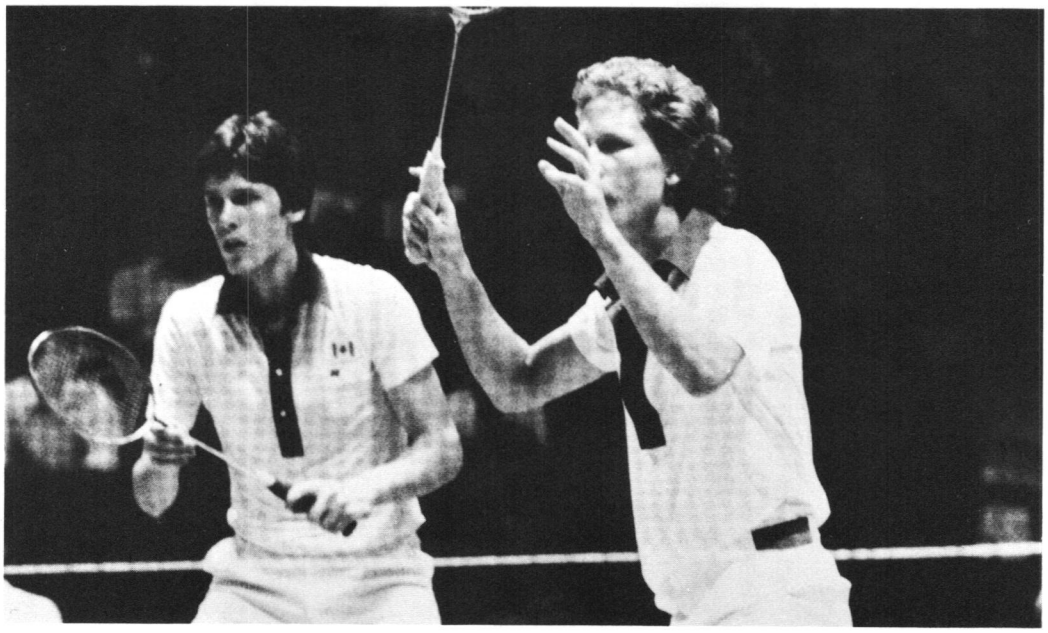
当初、7月あるいは11月に行う予定で準備を進めてきたが、中国日本両国の大会スケジュールがうまく調整できず、今年中に開くことは、ほぼ不可能となった。

そこでなんとか年度内（53年3月まで）に実施しようと、さらに調整をとっている。

日中大会といえば、侯加昌、湯仙虎、陳玉娘、梁秋霞といった世界でもトップレベルのプレーヤーを間近かに見ることができ、日本のファンにも非常に印象づよいものがあり、選手の間にも、その速攻から多くのものが学べるため、きわめて意義の深いものとなっている。

最初は日本に中国選手を招待し、次に二回続けて中国に招待されているため、現在のところ〝招待されっぱなし〟の状態にある。

日中友好のためにも、ファン、選手のためにも、スケジュール調整が首尾よく成功するよう期待したい。



トライオン・ジョンソン組（カナダ）

われらのクラブ ⑥

コーチを囲んでメンバー勢ぞろい



渋谷バードクラブS・B・C

昼食会が楽しくて

木曜日の朝、渋谷は公園通りのゆるい坂を登り、パルコの前の勤労福祉会館のドアーを押し階段を上がると、はずむようなシャトルを打ち合う音が聞こえてくる。こんなビルの3階に体育館があったのかと、思わず目を見張る。

コーチの指導のもとに、約30名のクラブ員が朝の9時半から12時まで、休むことなく練習に励んでいるのが「渋谷バードクラブ」つまり「SBC」である。

以前、本誌に登場した「SBC」は夜の部。今回はいよいよわれわれ、昼の部の「SBC」である。

クラブの発足は昭和42年6月。10名足らずのいわゆる〝バドキチ〟によって始められたが、次第に時代の流れ（？）を反映してか、昼の部は男性中心の活動から女性上位の、それも主婦中心のクラブとなった。

したがって家庭婦人連盟への加入の日も浅いが、区民大会や勤福大会に次いで、これらの大会でも好成績を収めたいと頑張っている。

このクラブの特色は、なんといってもトッププレーヤーである小島一平氏の直接指導と、充実したコーチ陣の暖い指導を受けられることであろう。

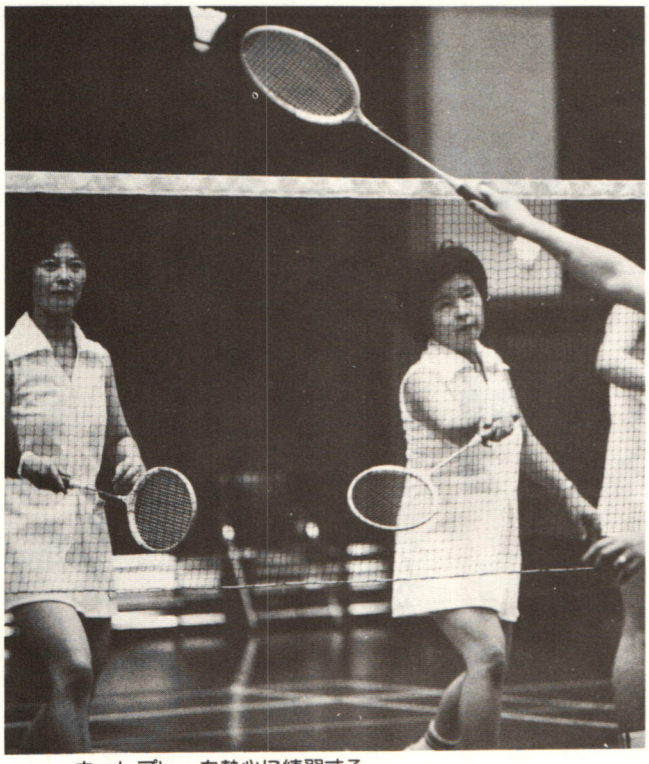
ランニング、腹筋運動などの基礎体力養成の重要さを常に力説し、かつそれを実行する「特訓」は、中年の身にはいささかこたえるが、このきびしい「特訓」を受けに、遠く神奈川、多摩をはじめ各区から通ってくるクラブ員が少なくない。

この激しい練習の汗をシャワーで流した後の、昼食の味はまた格別で、クラブの秘かな

楽しみでもある。

1階食堂のサービスのゆき届いた雰囲気もさることながら、国際経験豊かなコーチの技術解説は、ユーモアを混じえて楽しく、時には思わぬ人生談義に花が咲いてしまう。食事をしながらのなんでもない会話が、親しみを深め、スポーツを通しての飾りのないお付合いが、クラブ員みんなの和を強くし、活動を育てている。

ベテランから初心者までと、クラブ員の幅は広いが、各自がそれぞれ自分の可能性に挑んで努力している。



ネットプレーを熱心に練習する

バドミントンをはじめて

感想①……バドミントンをはじめて2年目。体重はなんと5キロも減り、すこぶる好調です。風邪もひかなくなったし、持病の便秘（ハズカシイ……!!）もすっかり治りました。近所の人からもうらやましがられています。

✠　✠　✠

感想②……家族の者もはじめた頃より協力的になってきました。子供は喜んでいますが、主人からは時々、夢中になりすぎてセーブされます。（反省してます）

✠　✠　✠

感想③……内向的だった性格が、外向的になり、コート内で自分を表現できるようになりました。集団で行動するので、人の和に気を配るようになり、それが家庭に帰っても、一人一人へのおもいやりの心になってきたようです。

＊　＊　＊

感想④……日頃の練習の成果を試合でためし、そして反省してまた練習する。この繰り返しがとても勉強になります。目的を持ってそれに向って進歩する。家庭にいては味わえない新鮮な刺激があります。

†　†　†

感想⑤……とにかく楽しくて楽しくて仕方がありません。1週間がとっても待ちどおしい。



ダブルスの練習風景

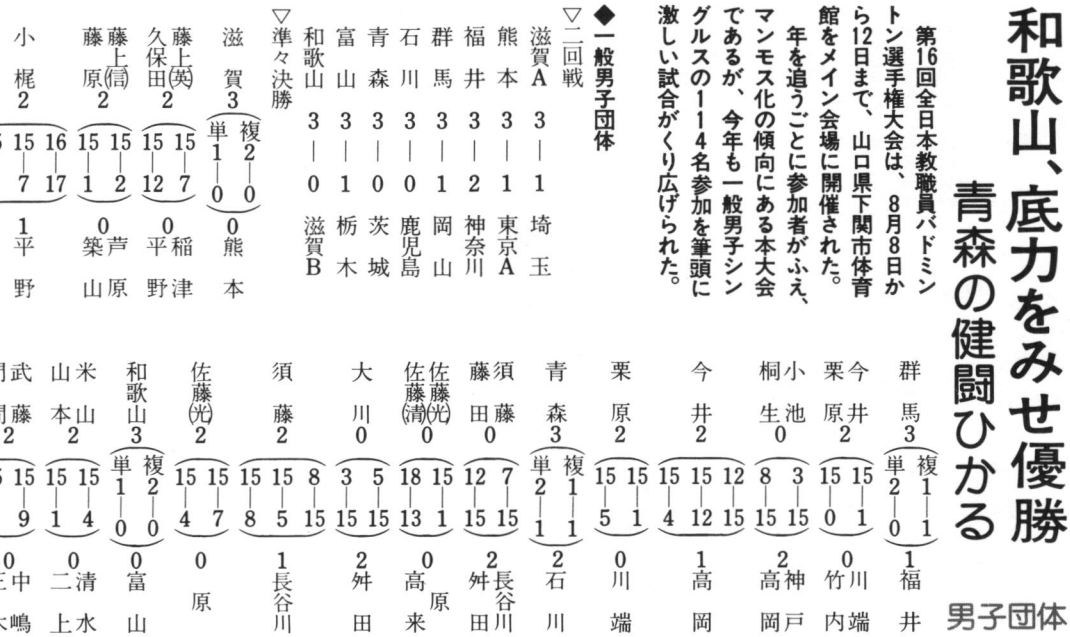
酷暑のもと各種目に大熱戦

――ベテラン・若手　200余名が参加

和歌山、底力をみせ優勝
青森の健闘ひかる

第16回全日本教職員バドミントン選手権大会は、8月8日から12日まで、山口県下関市体育館をメイン会場に開催された。年を追うごとに参加者がふえ、マンモス化の傾向にある本大会であるが、今年も一般男子シングルスの114名参加を筆頭に激しい試合がくり広げられた。

◆一般男子団体



男子団体

〈和歌山×青森〉

優勝候補筆頭の和歌山に国体開催で練習十分の青森がくいさがり、本大会もっとも見ごたえのある一戦となった。

和歌山は二年目の山本、米山が昨年以上に安定しており、とくに米山のダブルスにおける進境は著しいものがあった。

一方、青森も須藤、大川の若手が元気一杯で、ベテランの両佐藤も若返ってコートを走った。

この佐藤光伸、佐藤清志のペアが門間、武藤組に勝ったのが好試合となった第一の要因であるなら、トップシングルスに出場し、和歌山のエース山本をあと一歩まで追いつめた大川の健闘がその二つ目の要因といえよう。

佐藤組に比べるとまだまだ若手の門間、武藤には、ひと頃の冴えがまったくなく、攻撃、レシーブともに佐藤組が上回った。

山本対大川のシングルスは、

大川がすばらしいスタートをみせて第1ゲームを先取したが、第2ゲームにはいると山本が本来の動きで圧倒、ファイナルゲームへともつれこんだ。

この時点で山本の勝利が確定したかにみえたが、大川はあきらめず、最後までシャトルにくいつき、コート狭しと走り回った。14オールのセッティング後も山本を大きく揺さぶったが、あと一歩のところで大魚を逸した。

しかし、国体を間近かに控えての練習の成果がよく出ており、そのプレーには好感がもてた。最終シングルスの佐藤(光)も第1ゲームはよく頑張ったが、力つきた感があった。

〈群馬×滋賀〉

滋賀はダブルスを連勝し、王手をかけながら、ついにシングルスで三タテをくってしまった。

第1シングルスの小梶は新人らしく、また長身を生かしてのスマッシュを武器に、桐生を激しく攻めたてた。しかし、第2ゲームにはいると勝利を意識したか動きが固くなり、消極的なプレーとなり、ついに桐生に逆転を許してしまった。

続く藤原は、今井にあっけなく敗れ、藤上も腹痛のためまったく精彩なく完敗。この主力二人の不調により、滋賀は惜しい星を落した。

〈和歌山×群馬〉

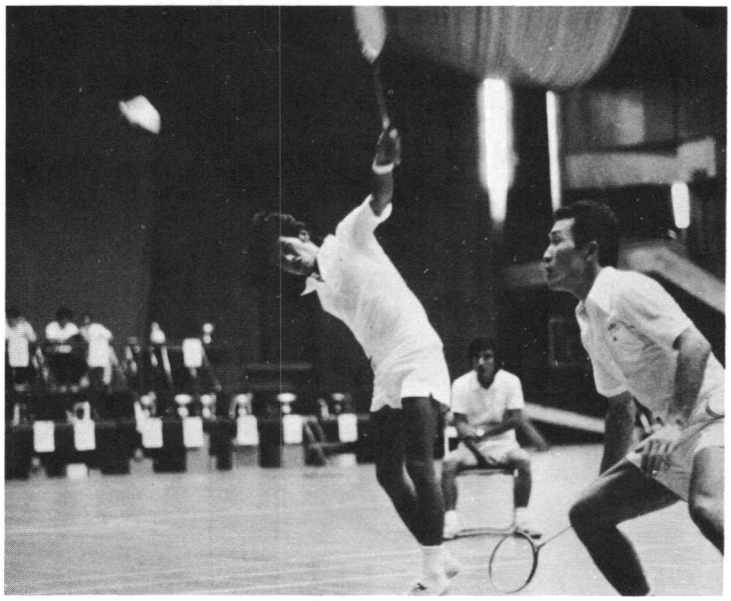
群馬のエース今井は、シングルス一本にかけて出場したが、山本にストレートで敗れ、勝敗の山は越えてしまった。

ダブルスを順当に1―1のタイとしたあと、群馬の期待を一身に集めて山本に対戦した今井だったが、山本に一方的に押しまくられ、続く桐生も、門間に完敗した。

山本、米山の二人でポイントを着実にあげてきた和歌山は、最終戦では門間を第2シングルスに起用し、スタミナを十分に残していた門間は連戦でバテ気味の桐生に楽勝した。

選手層の厚さを見せつけた一戦だった。

和歌山優勝の原動力となった山本・米山(右)



東京6年ぶりの栄冠

ベテラン・若手がかみ合う

女子団体

村田2(11―8 11―6)0名和

〈東京×岐阜〉

ベテラン功刀と新人村田の活躍で東京が辛勝した。

カギは第1ダブルス功刀・村田組対広沢・名和となった。功刀がうまくシャトルを散らし、村田が打つという東京ペアに対し、ともに拾いまくるという岐阜ペアの対戦で、決勝らしいゲーム展開となった。第1ゲームは、広沢・名和の中間にシャトルを落とすなど功刀が実にうまくコースをついて先行した。

しかし、第2ゲームにはいり、岐阜ペアも調子をとりもどし、また村田にも凡ミスが出て、フイナルゲームに、勝敗はもつれこんだ。しかし、岐阜ペアはスタミナ切れといった状態になり、東京が逃げ切った。

第2ダブルスを取って岐阜はタイとしたが、広沢がケイレンのため途中棄権、続いて松田が途中棄権で同じような経過をたどり、2―2のポイントで最終ゲームに勝負がかけられた。

村田もかなり体力を消耗していて苦しい展開ではあったが、

◆女子団体

▽準決勝

岐阜3(複2―0 単1―0)0茨城
広沢2(15―4 15―1)0藤井 名和 塚田
佐円2(15―3 15―2)0楠見 鷲見 前田
名和2(11―1 11―2)0塚田
東京3(複2―0 単1―0)0千葉
功刀2(15―5 15―6)0柿崎 村田 尻
岡崎2(15―13 15―6)0時田 松田 平野(や)
村田2(11―6 11―3)0平野(峰)

▽決勝

東京3(複1―1 単2―1)2岐阜
功刀2(15―6 12―15 15―8)1広沢 村田 名和
岡崎0(5―15 15―17)2佐円 松田 鷲見
功刀2(11―5 キ)0広沢
松田0(7―11 キ)2佐円

熊本、工藤を投入す

大阪の3年連続をはばむ

成壮年団体

第1ゲームのせり合いを抜け出してからは、自分のペースをつかみ、名和のうまさを力で抑え、東京に第10回大会以来の優勝をもたらした。

◆成壮年団体

▽準々決勝

大阪A 2—0 長崎
静岡 2—0 石川
三重 2—1 福岡
熊本A 2—0 山口A

▽準決勝

大阪A 2（複2—0 単0—0）0 静岡
伊勢田 杉田 2（15—2 15—1）0 中田 原
宝来 北野 2（15—8 15—12）0 河崎 雨宮
熊本A 2（複2—0 単0—0）0 三重
西田 工藤 2（15—9 15—4）0 大世古 南
本郷 南 2（15—0 15—0）0 本田 井坂

▽決勝

熊本A 2（複2—0 単0—0）0 大阪A
西田 工藤 2（17—16 15—2）0 伊勢田 杉田
本郷 南 2（17—14 15—4）0 宝来 北野

〈熊本A×大阪A〉

大阪は今年勝てば三年連続優勝であり、当然その布陣で出場した。伊勢田・杉田の30歳ダブルス、宝来・北野の40歳ダブルスは、今年も快調にとばした。しかし、熊本は二年連続で大阪に敗れ二位に甘んじており、なんとしても今年は大阪を阻止する意気ごみで出場した。

それが工藤の起用である。いうまでもなく工藤は、過去にシングルス優勝四回という実力プレーヤーであり、昨年も三位に入賞している。

その工藤を30歳ダブルスとシングルスに起用し、必勝を期す熊本は、ついに工藤にシングルスを回すことなく、すべて2—0のストレートで勝ち、優勝をとげた。

西田・工藤対伊勢田・杉田の第1ゲームは最後までせり合った。工藤にシャトルを回さず、徹底的に西田を攻撃した大阪ペアは、工藤の焦りを誘いゲームポイントまでこぎつけた。しかし、西田はよく頑張り、凡ミスをせず走りまくって追いつき、先行した。

これで大阪ペアはがっくりときたのか、集中力の糸が切れ、あっさりとストレート負けを喫した。このダブルスの一戦で熊本の優勝はほぼ確定したが、続く宝来・北野の大阪ペアはゲームを捨てずに試合を盛り上げた。第2ゲームこそ一方的に押しまくられ、完敗したものの、シャトルにくいついていく姿には好感がもてた。

意外とも思える工藤の起用という、熊本の執念が優勝をもぎとった一戦であった。

●男子シングルス

新人舛田、ベテラン関を降す

山本は連覇ならず

◆一般男子シングルス

▽四回戦

山本（和歌山）2—0 栗原（群馬）
高岡（福井）2—1 木戸（宮城）
長谷川（石川）2—0 門間（和歌山）
須藤（青森）2—1 藤原（滋賀）
築山（熊本）2—0 平野（岐阜）
舛田（石川）2—0 桐生（群馬）
今井（群馬）2—0 米山（和歌山）
関（東京）2—0 神戸（福井）

▽準々決勝

山本 2（15—5 18—17）0 高岡
舛田 2（15—9 15—3）0 築山
長谷川 2（15—10 15—12）0 須藤
関 2（15—7 15—9）0 今井

▽準決勝

舛田 2（15—8 9—15 17—14）1 関
関 2（15—6 17—14 4—15）1 長谷川

▽決勝

舛田 2（15—9 15—5）0 山本

■若手台頭の目立つ今大会であったが、シングルスベスト4には、関、長谷川というベテランと、新卒の舛田、二年目の山本の若手がそれぞれはいった。しかし、ベテラン同士が準決勝で死力を尽したのに対し、舛田はあっさりと昨年の覇者山本を降し、余裕をもって決勝に臨んだ。

この体力的・精神的負担にもかかわらず関は非常によく走り、よく打った。

第1ゲームセッティングの末取れたが、ここで気落ちすることなく、第2ゲームを取ってフアイナルに持ちこんだあたり、ベテラン健在を思わせた。しかし関の頑張りも、最終的には舛田の若さに押し切られた。

準決勝で山本を一方的に降した舛田が、疲れのみえた関を若さで退けた一戦であったが、若手台頭のなかで、団体戦、個人

●女子シングルス

国体のホープ 松田が圧勝

功刀 驚異の粘りで3位に

戦を通じて、全力を尽し、しかも好成績を収めた関の健闘は大きな称賛に値する。

その反面、エントリー114名113試合のうち、棄権がなんと29試合という状態は、それなりの理由があるにせよ、寂しいかぎりである。

◆一般女子シングルス

▽三回戦

功刀（東京） 2―0 田中（福岡）
田宮（奈良） 2―0 神山（群馬）
松田（青森） 2―0 松田（東京）
佐円（岐阜） 2―0 寄辺（長崎）
古谷（奈良） 2―0 服部（滋賀）
山本（東京） 2―0 森（大阪）
村田（東京） 2―1 林（岡山）
名和（岐阜） 不戦勝

▽準々決勝

功刀 2（11―11 11―6 5―0）0 田宮
松田 2（11―11 11―8 4―0）0 佐円
古谷 2（11―11 11―2 3―0）0 山本
村田 2（11―11 11―5 4―0）0 名和

▽準決勝

松田 2（11―11 11―2 3―0）0 功刀
古谷 2（11―11 11―5 1―0）0 村田

▽決勝

松田 2（11―11 11―6 2―0）0 古谷

■女子シングルスも44試合のうち、15試合が棄権という寂しいものであったが、若手が頑張り、試合を盛り上げた。

古谷（奈良）と松田（青森）の争いと予想されたが、そのとおりになった。昨年のベスト4がいずれも不参加で、功刀が第1シードとなり、準決勝で松田と対戦した。若手に対しベテランも健闘したが、ストレートで屈し、この勢いのまま、松田は決勝でも古谷をストレートで押し切った。

ときおり、さすがと思わせるプレーをみせた古谷だったが、練習量が減っているのか、もうひとつ精彩を欠き、松田をおびやかすまでには至らなかった。

●男子ダブルス

山本・米山が初優勝

台頭著しい若手ペア

◆一般男子ダブルス

▽三回戦

今井 桐生 2―0 阿部 能登（群馬）（埼玉）
関 佐藤（東京） 2―1 平田 西城（三重）
工藤 稲津（熊本） 2―0 藤上(英) 久保田（滋賀）
神戸 高岡（福井） 2―0 門間 武藤（和歌山）
長谷川 舛田（石川） 2―0 杉田 瀬戸（神奈川）
芦原 築山（熊本） 2―0 木島 藤元（兵庫）
山本 米山（和歌山） 2―0 佐藤(光) 須藤（青森）
渡部 木戸（宮城） 2―0 河嶋 小梶（滋賀）

▽準々決勝

今井 桐生 2（15―6 15―6）0 関 佐藤
神戸 高岡 2（15―8 15―10）0 工藤 稲津
長谷川 舛田 2（15―5 15―0）0 芦原 築山
山本 米山 2（15―8 15―4）0 渡部 木戸

▽準決勝

今井 桐生 2（15―11 15―3）0 神戸 高岡
山本 米山 2（15―5 15―12）0 長谷川 舛田

▽決勝

山本 米山 2（15―3 6―15 18―15）1 今井 桐生

■米山の成長により、山本・米山組は楽に決勝までコマを進めた。準々決勝の渡部・木戸組に対しては終始攻めまくり、つけ入るスキを与えなかった。準決勝では、ダークホース的存在で勝ち上ってきた長谷川・舛田に

対し、あわてることなく、第1ゲームのせり合いにも、たんねんにコーナーを突いてチャンスを待ち、先行すると第2ゲームは一方的に圧倒した。

昨年にくらべると米山がじつによく拾い、またコーナーワークに大きな成長が見られた。また、山本も昨年のように無理打ちをせず、お互いにチャンスメーカーになるようにプレーをし、非常によくイキの合ったペアであった。

●女子ダブルス

功刀の好リードで栄誉

広沢・名和の雪辱ならず

◆一般女子ダブルス

▽準々決勝

功刀 村田 2—0 池尻 柿崎（東京 千葉）

秋山 神山 2—1 服部 田中（群馬 滋賀）

外崎 松田 2—0 藤井 山本（青森 東京）

広沢 名和 2—0 古谷 田宮（岐阜 奈良）

▽準決勝

功刀 村田 2（15—12, 15—4）0 秋山 神山

広沢 名和 2（15—9, 15—9, 9—15）1 外崎 松田

▽決勝

功刀 村田 2（17—14, 9—15, 15—6）1 広沢 名和

■団体戦決勝でも対戦している両ペアだが、ゲーム内容も同じような展開となった。

功刀・村田がうまくシャトルを散らして先行すると、広沢・名和もよく拾ってタイに持ちこんだ。そしてファイナルゲームも14オールのセッティングまでせり合ったが、広沢・名和にくらべて、攻撃力の上回る功刀・村田のペアは、最後は力で押し切った。

●年齢別・シングルス・ダブルス、混合ダブルス

30歳は原が単複を制す

ミックスは須藤・松田のフレッシュ・コンビ

◆30歳以上男子シングルス

▽準々決勝

山口（香川） 不戦勝 中嶋（富山）

原（石川） 2—0 中島（福岡）

田中（滋賀） 2—0 佐藤（大分）

南（三重） 2—0 鎗水（福岡）

▽準決勝

原 2（15—2, 15—0）0 山口

田中 2（15—3, 15—13）0 南

▽決勝

原 2（15—5, 15—4）0 田中

◆30歳以上男子ダブルス

▽準々決勝

香島 浜司 2—0 中嶋（富山）

佐々木(彦) 佐々木(邦) 2—0 村西 松本（岩手 石川）

大世古 南（三重） 2—0 村尾 横溝（福岡）

北方 原（石川） 2—0 野見山 都（福岡）

▽準決勝

香島 浜司 2（15—11, 15—12, 10—15）1 佐々木 佐々木

北方 原 2（18—13, 11—15, 15—9）1 大世古 南

▽決勝

北方 原 2（15—4, 15—11）0 香島 浜司

◆40歳以上男子シングルス

▽準々決勝

鈴木（秋田） 2—0 太田（長崎）

佐藤（新潟） 不戦勝 不破（富山）

元田（熊本） 2—0 前田（東京）

南（熊本） 2—0 宝来（大阪）

▽準決勝

鈴木 2（15—6, 15—5）0 佐藤

南 2（15—2, 15—5, 10—15）1 元田

▽決勝

鈴木 2（15—6, 15—1）0 南

◆40歳以上男子ダブルス

▽準々決勝

毛利 西崎（岡山） 2—0 亀山 石山（石川）

本郷 南（熊本） 2—0 太田 小林（長崎）

宝来 北野（大阪） 2—0 沢田 福田（熊本）

不破 内多（富山） 2—0 福島 元田（熊本）

▽準決勝

本郷南 2 — 0 毛利西崎
15—15 / 15—7

宝来北野 2 — 0 不破内多
15—15 / 15—3

▽決勝

本郷南 2 — 0 宝来北野
15—15 / 15—5

◆50歳以上男子シングルス

▽準決勝

平田（東京） 2 — 0 斎藤（大阪）

畑（福井） 2 — 0 吉持（兵庫）

▽決勝

畑 2 — 0 平田
15—15 / 2—2

◆50歳以上男子ダブルス

▽準決勝

平田 橋田（東京） 2 — 0 加冷 成井（福岡）

竹内 斎藤（大阪） 2 — 0 山根 村田（山口）

▽決勝

竹内 斎藤 2 — 1 平田 橋田
15—15 / 15—8 / 3—15

◆30歳以上女子シングルス

▽準決勝

西田（熊本） 不戦勝 前田（茨城）

永原（富山） 2 — 0 元田（熊本）

▽決勝

永原 2 — 0 西田
11—11 / 11—0

◆30歳以上女子ダブルス

▽準々決勝

今井 秋山（群馬） 2 — 0 佐藤(光) 外崎（青森）

西田 元田（熊本） 不戦勝 楠見 前田（茨城）

◆混合ダブルス

▽準決勝

藤上(英) 服部（滋賀） 2 — 0 伊藤 藤井（東京）

須藤 松田（青森） 2 — 0 関 山本（東京）

栗原 神山（群馬） 2 — 0 二上 松木（富山）

▽決勝

今井 秋山 2 — 0 藤上 服部
15—15 / 15—11

須藤 松田 2 — 0 栗原 神山
15—15 / 15—5

須藤 松田 2 — 0 今井 秋山
15—15 / 15—8



▲シングルス優勝の舛田

▼がんばる功刀・村田(左)



▼成壮年団体優勝の熊本チーム



飯野・土田、夏を制す

オールスター・ダブルス

第3回を迎えた全日本男子オールスターダブルス'77が、去る8月28日、国立競技場代々木第2体育館で行われた。全日本を代表する選び抜かれた8ペアの出場とあって、会場は熱気と興奮に包まれ、つめかけた約千人の観衆は最後まで暑さを忘れての観戦だった。

▽1回戦

飯野（ヨネックス）
土田（電東京）
2（15—2、15—12）0
今泉
牧野（高岡市役所）

山本秀
高橋（キケン）（日大）
2（15—0、15—2）0
山本茂
米山（和歌山県庁）

長谷川
西村（中大）
2（15—12、15—3）0
樋岡
吉村（奈良一条高）

池田（電電東京）
栂野尾（ヨネックス）
2（15—12、15—3）0
尾崎（電電東京）
銭谷（カワサキ）

▽準決勝

飯野
土田
2（15—2、15—6）0
山本秀
高橋

池田
栂野尾
2（15—1、17—16）0
西村
長谷川

▽決勝

飯野
土田
2（11—15、15—6、15—6）1
池田
栂野尾

（飯野・土田は3年連続3度目）

人気集める長谷川

かつてアイドル的人気を得た山本の不参加もあって、会場の黄色い声援を受けたのが、高校生ペアの樋岡・吉村、そしてサイン攻めにあった長谷川だった。

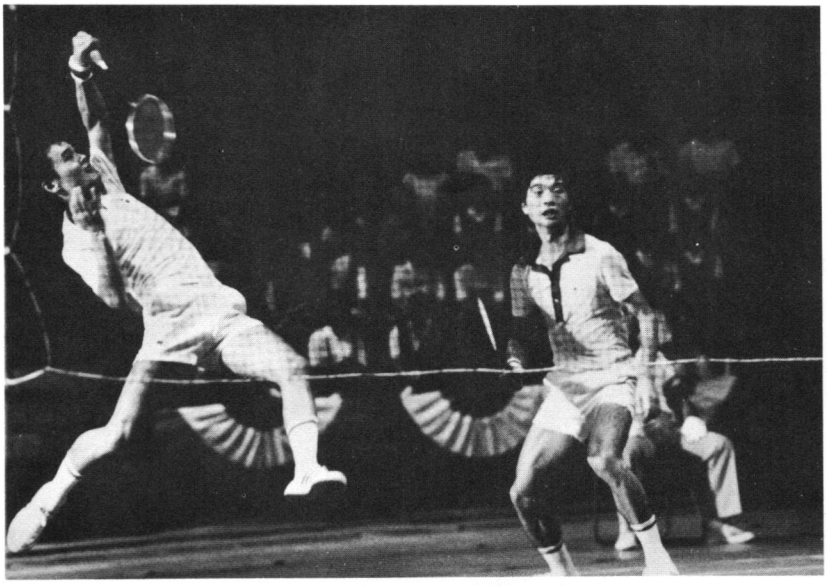
樋岡・吉村はさすがに大学生の壁に当たって実力を十分に発揮できず、おまけに大勢の観衆の目と、フットライトを浴びて、足が地につかない模様。インターハイ準優勝のコンビも、この日ばかりは型なしだった。

樋岡・吉村戦では悪役に回った格好だった西村・長谷川は、池田・栂野尾戦になると一転して、ヒーローに早変り。2ゲーム目は先に16—14とゲームポイントを握り、場内を騒然とさせた。西村の強打と、サウスポーから流れるような華麗なプレーを見せる長谷川のテクニックは、惜しくも大魚を逃がしたが、魅力いっぱいの大器であることを証明した。

まだまだ尾崎・銭谷

尾崎・銭谷は、またエンジンのかかりが遅く、気がついたら試合は終っていた……この状態はもう何度目だろうか、あまりにも策がなさすぎはしないだろうか、自慢の強打も宝の持ち腐れになっては、見ている方も歯がゆいものだ。

飯野・土田はこの大会には滅法強く、池田・栂野尾に完勝。オールジャパンでの対戦がいよいよ面白いものになった。



ますます力をつけた飯野・土田（左）

日本、カナダを圧倒

「カナダ対日本」国際親善バドミントン

カナダ対日本の国際バドミントン親善試合は、日本2勝のあとを受けて最終戦・東京大会が9月5日、国立競技場代々木第2体育館で行われた。

カナダチームは、若さあふれる積極的な攻撃に出て日本チームを苦しめたが、実力にまさる日本は、地元の利を生かした落ち着いたプレーで、1ポイントを与えただけで、見事に勝利を飾った。

カナダ　1―4　日本

〈男子〉

トライオン・ジョンソン　0（4―15　11―15）2　飯野・土田

チック　0（5―15　6―15）2　銭谷

ヤングバーグ・クラークソン　0（10―15　5―15）2　関根・大塚

ヤングバーグ　0（8―11　4―11）2　近藤・米倉

クラークソン　2（11―5　11―2）0

〈トライオン・ジョンソンVS飯野・土田〉

第1ゲームは飯野・土田が慎重な配球から、浮いた球をスマッシュでことごとく決め、一方的な内容。しかしそれで安易感が生れたのか、第2ゲームになると凡ミスを連発。一進一退からようやく8―8で抜け出し、長身のサウスポー、トライオンの強打を単発におさえて逃げ切った。

〈チックVS銭谷〉

場内から思わずため息が漏れるようなチックのスマッシュ。しかしリードを許したのは各ゲームとも3本までで、徐々に目の慣れた銭谷のレシーブが上回り、ヘアピンを完璧に決めて余裕を持って完勝した。

〈ヤングバーグ・クラークソンVS関根・大塚〉

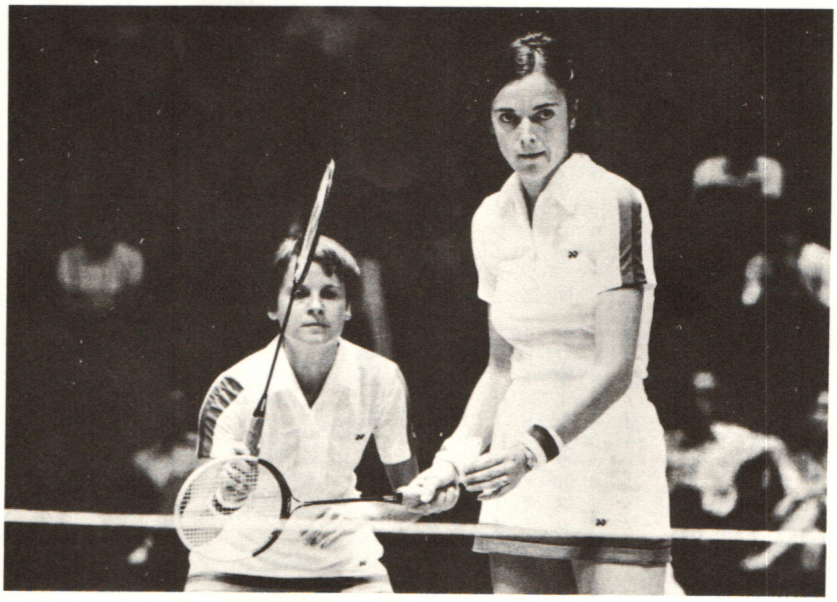
長旅の疲れか、それとも二人ともシングルスプレーヤーなのか、ヤングバーグもクラークソンも、機敏な動きがなく、長いラリーにも凡ミスを繰り返して自滅してしまった。関根・大塚の動きの良さが目についた一戦だった。

〈ヤングバーグVS近藤〉

両者とも攻撃力のある迫力のある試合だった。特に1―10から逆転を図ったヤングバーグの猛襲は素晴らしく、ゲームポイントをきわどいコースへの積極果敢な攻撃で何度も逃がれ、ジリジリと8―10まで追いかけた。この時の集中力には、敗れたとはいえ潜在的な底力を認めないわけにはいかないだろう。

〈クラークソンVS米倉〉

最近の米倉の不振がはっきり現われた一戦だった。動きがやや固い上にクリアーがすべて浅いため、なおさら体が萎縮していた。無理してコーナーを狙った球もサイドを割るという悪循環を繰り返し、クラークソンの思うツボにはまっていた。



華麗なプレーをみせてくれたヤングバーグ・クラークソン(左)

ヨーロッパ情報

第31回オランダ国際バドミントン選手権大会

第31回オランダ国際バドミントン選手権大会は、2月11日から13日まで、ベイバイクで開かれた。

この大会は、最近急速に参加者がふえ、きわめて人気の高いものとなっているが、今年は14カ国から、男子シングルス80名、女子シングルス47名をはじめ、多くの選手が参加した。

このため、正味二日間の開催期間では時間的にきつくなり、勝者は次々に試合をこなさなければならなかった。

オランダ協会関係者は、各国に人気の高まってきたのを喜ぶ反面、来年からの試合の進行・消化に頭を悩ませている。

今大会で特筆すべきことは、戦後大会が復興してから、じつに24年ぶりに、地元オランダから優勝者を出したことである。女子ダブルスで、ヨーケ・バン・ビューセコム、リダー夫人組はイギリスのバーバラ・ジャイルズ、ジェーン・ウェブスター組をファイナル・ゲームの末降し、画期的ともいうべきタイトル獲得に成功した。

このほかでは、ギリアン・ギルクス夫人が、バン・ビューセコムにヒヤリとさせられたものの優勝し、混合ダブルスとともに二冠を獲得。男子シングルスのデリク・タルボット、男子ダブルスのデビッド・エディ、E・H・サットン組とあわせ、イギリスは四種目を制した。

また、カナダのウェンディ・クラークソンは、イギリス期待の若手、カレン・ブリッジを破ってベスト4に進出した。ブリッジは、この日すでにシングス三試合を行い、このうち二試合はファイナル・ゲームにもつれるという内容のため、体力を消耗しており、クラークソンにストレート負けを喫した。

今大会における最大の好ゲームは、男子ダブルス決勝のデビッド・エディ、エディ・サットン組（イギリス）対エロ・ハンセン、ステイン・スコブガード組（デンマーク）の一戦であった。この試合1―1のあとのファイナル・ゲームでデンマークペアは14―10とリードした。しかし、イギリスペアは、8度のマッチポイントを逃れ、セッティングに持ちこみ、17―15と逆転勝ちに成功した。

このスリリングな試合に、二千名を越す観客は惜しみない拍手をおくった。各種目の決勝スコアは次のとおり。

◆男子シングルス
デリク・タルボット（イ）　8―15、15―6、18―13　ステューア・ジョンソン（ス）

◆女子シングルス
ギリアン・ギルクス夫人（イ）
11―5、8―11、11―1　ヨーケ・バン・ビューセコム（オ）

◆男子ダブルス
デビッド・エディ、エディ・サットン組（イ）　6―15、15―8、17―15　エロ・ハンセン、ステイン・スコブガード組（デ）

◆女子ダブルス
ヨーケ・バン・ビューセコム、リダー夫人組（オ）　15―12、3―15、15―12　バーバラ・ジャイルズ、ジェーン・ウェブスター組（イ）

◆混合ダブルス
デリク・タルボット、ギリアン・ギルクス夫人組（イ）　15―7、15―10　ステイン・スコブガード（デ）、ヨーケ・バン・ビューセコム組（オ）

第4回ヨーロッパ・ジュニア・バドミントン選手権大会

二年ごとに開催されているヨーロッパ・ジュニア選手権は、今年で第4回を迎え、4月9日から14日までマルタで行われた。

この大会には、イングランド、スウェーデン、西ドイツ、デンマーク、スコットランド、ソ連、オランダ、ノルウェー、アイルランド、マルタ、オーストリアの各国から選手が参加した。

二年前にコペンハーゲンで行われた第3回大会の時は、デンマークが団体戦に勝ち、個人戦では、デンマークとスウェーデンがそれぞれ二個ずつのタイトルを獲得し、イングランドは個人戦のタイトルを得ただけであった。

ところが、今年は、イングランド勢が大活躍で、じつに五種目に優勝をかざった。団体戦では、第1グループに出場し、スウェーデンを5―0、西ドイツを5―0、そして決勝でデンマークを4―1で破った。

個人戦でも男子シングルスでA・B・グードが、女子シングルスでK・S・ブリッジが、同ダブルスでK・S・ブリッジ、K・T・パティック組が、そして混合ダブルスでN・タイヤー、K・S・ブリッジ組がそれぞれ優勝した。男子ダブルスは、シングルスでK・R・ジョリーが足を痛めたため、N・タイヤーと組んだダブルスを決勝で棄権し、デンマークのJ・トフトルント、N・クリステンセン組が優勝した。

イングランドの男子ナンバーワンであるケビン・R・ジョリーは、シングルス準決勝でスウェーデンのG・カールソンと対戦中、ジャンプスマッシュを放って固い床に着地したさい。肉ばなれという不運に見舞われた。しかし、彼はこのゲームを闘いぬき、さらにダブルスの準決勝でも、デンマークのN・ハンセン、J・ハンマガード・ハンセン組に勝って、決勝へ進出した。しかし医師はそれ以上プレーを続けることは危険であると判断し、彼も単複、混合複の決勝を断念した。各種目の決勝スコアは次のとおり。

◆団体戦
イングランド4―1デンマーク

▽第1ダブルス（混合）
N・タイヤー、K・パティック組　18―13、15―4　J・トフトルント、K・キール組

▽第1シングルス（男子）
K・R・ジョリー　15―5、15―5　J・ハンマガード・ハンセン

▽第2シングルス（女子）
K・ブリッジ　6―11、11―6、11―0　A・ジュール

▽第2ダブルス（男子）
K・R・ジョリー、N・タイヤ



ドイツ国際バドミントン選手権大会

ドイツ国際バドミントン選手権大会は、ヨーロッパ各国の選手を集めて、3月4日から6日まで西ドイツ・ルール地方のミュールハイムで行われた。

試合は、イングランド勢が強く、またスウェーデンも好調だった。今年はイギリスのギルクス夫人、P・ウェトナール、デンマークのF・デルフス、L・コーペンらは参加せず、男子シングルスではスウェーデンのステューア・ジョンソンがイングランドのデリク・タルボットを降して優勝した。

女子シングルスは、マーガレット・ロックウッド夫人（イングランド）が安定したプレーをみせ、地元ドイツでただ一人決勝に進出した、ブリギッタ・ステデン夫人を破って優勝した。

また、男子ダブルスでは、スウェーデンのエース、ベント・フローマン、トーマス・キールストロム組が二年連続優勝をかざった。

そのほか、混合ダブルスではオランダのロブ・リダーと夫人が健闘し、決勝に進んだ。リダー夫妻は最近着実に力をつけてきており、これからも楽しみである。

各種目の決勝スコアは次のとおりだが、千名を越える観客は熱のこもったプレーに満足していた。

◆男子シングルス
ステューア・ジョンソン（ス）12—15、18—15、15—7　デリク・タルボット（イ）

◆女子シングルス
マーガレット・ロックウッド夫人（イ）　11—7、11—3　ブリギッタ・ステデン夫人（ド）

◆男子ダブルス
ベント・フローマン、トーマス・キールストロム組（ス）15—12、15—9　S・スコブガード、G・ハンセン組（デ）

◆女子ダブルス
バーバラ・ジャイルズ、ジェーン・ウェブスター組（イ）15—10、15—11　インゲ・ボルグストロム、ピア・ニールセン組（デ）

◆混合ダブルス
J・D・エディ、バーバラ・ジャイルズ（イ）　15—11、12—15、15—10　ロブ・リダー、リダー夫人（オ）

▼今月は、本年の前半に開かれたヨーロッパにおける国際大会のもようをお知らせしました。

▽第3ダブルス（女子）
K・ブリッジ、K・パティック組　15—5、15—8　A・ジュール、K・マイザー組

◆男子シングルス
A・B・グード（イ）　不戦勝　K・R・ジョリー（イ）

◆女子シングルス
K・S・ブリッジ（イ）　11—8、11—3　K・マイザー（デ）

◆男子ダブルス
J・トフトルント、N・クリステンセン組（デ）　不戦勝　K・R・ジョリー、N・タイヤー組（イ）

◆女子ダブルス
K・S・ブリッジ、K・パティック組（イ）　15—4、15—5　P・ハミルトン、J・リード組（ス）

◆混合ダブルス
N・タイヤー、K・パティック組（イ）　不戦勝　K・R・ジョリー、K・S・ブリッジ組（イ）

ギルクス前言をひるがえす

選手に復帰し、大会に参加

クリスマスまではプレーをしない、と言明し、イングランド関係者を困らせていたギリアン・ギルクス夫人は、協会関係者との会談を続けていたが、9月12日になって、プレーヤーに復帰すると発表した。

そして、アン・スタット、レイ・スティーブンス、マイク・トレジェットとともに、イングランドを代表し、10月1日、2日にデンマークで行われる国際大会に参加することとなった。

この国際大会（ヴェイアローズ・クラブ国際大会）には、デンマーク、スウェーデン、西ドイツからも選手が参加し、今シーズン皮切りのものとなる。

また、10月8日、9日にスコットランド北部のパース市で開かれるベル競技会には、バーバラ・ジャイルズ、ポーラ・キルビントン、ノラ・ペリー、カレン・パティック、ダンカン・ブリッジ、デビッド・エディ、ケビン・ジョリー、エディ・サットン、デリク・タルボット、エリオット・スチュアートの十選手を派遣することとなった。このチームは第一線の選手および、ヨーロッパ・ジュニア選手権で好成績を収めた若手選手で構成されている。

このベル競技会と同時に、デンマークで開催のヘニング・バドミントン・クラブ国際大会には、レイ・スティーブンス、マイク・トレジェット、ジェーン・ウェブスター、スタット夫人が代表として参加する。

元全英チャンピオンのジュディ・ハッシュマン夫人は、10月7日から9日までチェコスロバキアのプラハで開かれる、第6回チェコ選手権にプレーをしない（ノン・プレイング）キャプテンとして選手を率いて行く。選手は、カレン・ブリッジ（ジュニア三冠王）、ダイアン・アンダーウッド、ピーター・ブリヴァン、マイク・ウィルクスの四名である。

以上、9月13日付「ガーディアン」紙から。

Air Mail From London by H. Yamamoto

全国の〝バド界特派員〟が決定!!

◆ご協力をお願いいたします

本誌編集部では、日本各地のニュース、情報網を完備するため、各都道府県協会に、「**バドミントン界担当**」のご協力をお願いしておりましたが、次の方々からご協力をいただけることとなりましたので、読者の皆様にお知らせいたします。

▼熊本県・本郷節生
▼長崎県・片平直照
▼愛媛県・新名静夫
▼広島県・安倍淳美
▼岡山県・毛利清志
▼山口県・川岡　智
▼鳥取県・中村正樹
▼島根県・岸　一雄
▼兵庫県・澤野公一
▼滋賀県・沢　長寿
▼大阪府・宝来敏夫
▼京都府・野村嘉明
▼神奈川県・内堀　毅
▼千葉県・峰元一匡
▼栃木県・近藤　満
▼群馬県・高橋　洌
▼山梨県・田中　登
▼青森県・坂本敏彦
▼福島県・二瓶　健
▼山形県・渡部二雄
▼秋田県・相場清一
▼北海道・五十嵐宣寿

以上。〈敬称略〉

「**バド界担当**」の皆様には、地方のニュース、催物などの情報をお送りいただくようお願いいたします。また、編集部からもお知らせ等、ご連絡をいたしますので、よろしく。

青森国体・開始式に表彰されました

◆おめでとうございます

青森国体バドミントン競技開始式時被表彰者につきましては、功労賞申請7件、国体10回以上出場申請3件を得ましたので、特別功労賞、県協会表彰、技能賞、感謝状とあわせ、左記の方がたが、開始式の際表彰されました。

(1)特別功労賞
川端昇市（埼玉県）
秋元信一（東京都）
吹田修一（東京都）
小宮淳宏（神奈川県）
市嶋智三郎（新潟県）
丸山嘉久（鹿児島県）

(2)功労賞
藤田庸右（奈良県）
東田多美男（佐賀県）
米丸芳男（鹿児島県）

(3)県協会表彰
三重県バドミントン協会
茨城県バドミントン協会
佐賀県バドミントン協会
鹿児島県バドミントン協会
宮崎県バドミントン協会
沖縄県バドミントン協会

(4)技能賞
栂野尾悦子（東京都）
植野恵美子（大阪府）
湯木博恵（東京都）

(5)国体10回以上出場表彰
小島一平（神奈川県）
山口　香（三重県）
森　芳夫（岐阜県）

(6)感謝状
浪岡町

以上。〈敬称略〉

編集室から

◆今月は土田選手がついに、シングルスのタイトルを獲得した全日本社会人大会のもようを中心にお届けします。

◆ヨーロッパ各地も10月1日からいよいよシーズンにはいり、各国から大会の報道が到着しています。順を追ってご紹介していきますので、お楽しみに。

◆中国加盟問題については先月号でもお知らせしましたが、再び問題が広がっていますので、正確な情報をキャッチして特集を組む予定です。新しい国際組織についてもお知らせしなければなりません。もうしばらくお待ちください。

◆お待ちかねの「**78年カレンダー**」が間もなく発行になります。詳細は25ページのとおりですが、今年は非常にすばらしい出来ばえと自認しています。写真はモノクロですが、厚手のアート紙、一新したデザインで、必ずご期待にそえると思います。さっそくご予約ください。

◆また、本誌を穴をあけず簡単に綴じることのできる、バインダーも年内には製作する予定で準備を進めています。追って誌上で発表いたします。

◆新しいバックナンバー一覧表ができあがりました。今月号で発表の予定でしたが誌面の都合で、来月に延期します。ご了承ください。

◆本誌の**読者拡大**にご協力ください。友人・知人の方で、まだ本誌を定期購読していない方がいらしたら、ぜひお奨めください。ハガキでお申し込みになれば、専用払込用紙をお送りします。

◆では、来月号をお楽しみに。

バドミントン界　通巻第96号　1977年10月号　定価 300円

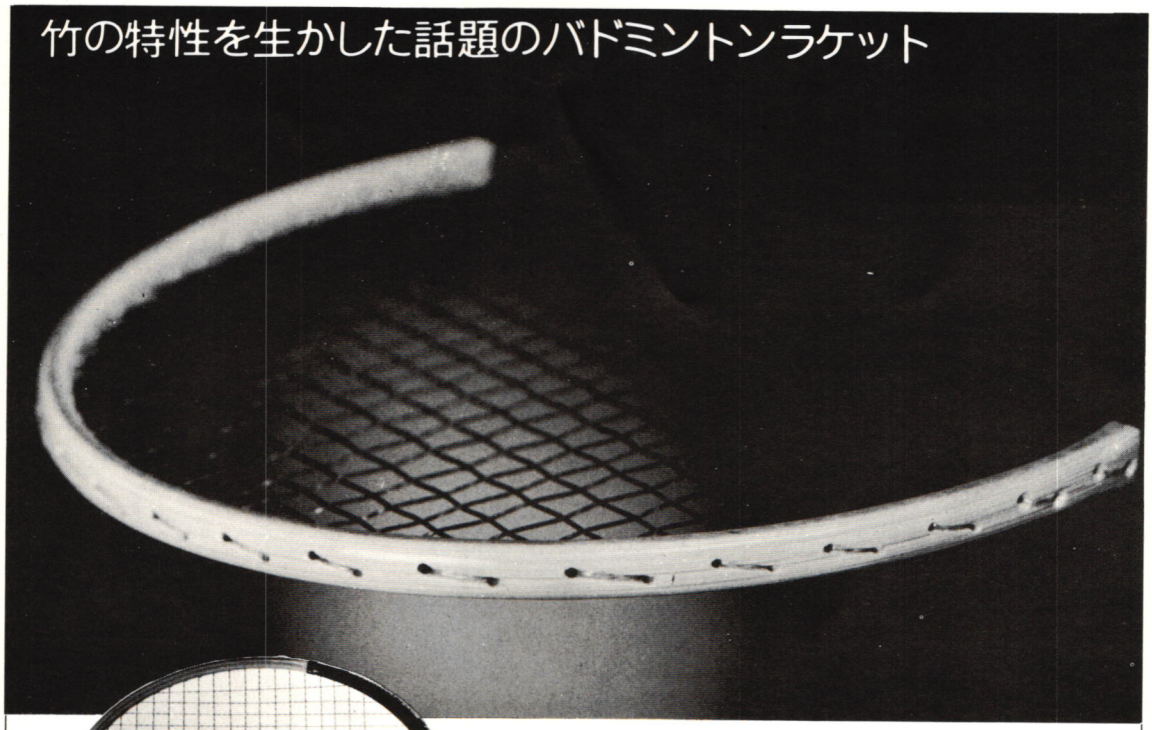
©1977　無断転載を禁ず

昭和52年10月15日発行
編集人／赤星　三樹
発行人／秦　浩

発行所・日本バドミントン協会
郵便番号150 東京都渋谷区神南1—1—1　岸記念体育会館
電話　03—467—3111(代表) 内線351
振替　東京5-32193(協会)　東京5-9525(編集部)

うなる打球/格調のバンブー

竹の特性を生かした話題のバドミントンラケット



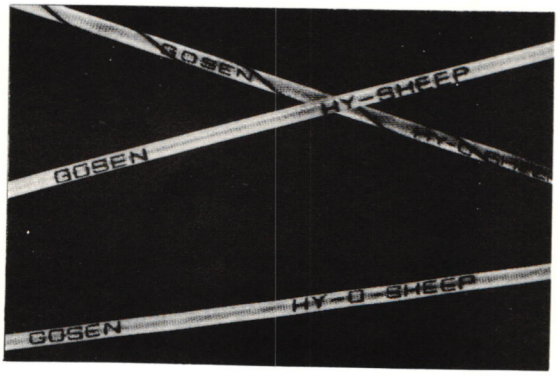


Hy-Thomas

No. B45 ハイ・トーマス(バンブー) ¥4,500　★最高級選手用ロングテーパーシャフト フレーム・カバー付



最後まで勝ち抜くもの/品質保証のビッグなガット

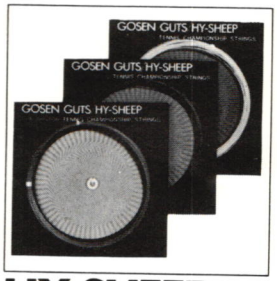




HY-O-SHEEP

No. 1090/1091 ハイ・オー・シープ ¥600

油入特殊ガット最高級品選手用 アンバー・青スパイラル



HY-SHEEP

No. 1060 ハイ・シープ　¥400

選手用(アンバー・赤・青)

株式会社ゴーセン
■本　社●大阪市東区豊後町4　☎(06)942-5816 代
■東京支店●東京都台東区蔵前4-14-2　☎(03)862-6576 代
■福岡営業所●福岡市中央区薬院1-4-8　☎(092)712-5247 代

月刊「バドミントン界」10月号
昭和五十二年十月十五日発行（毎月一回一日発行）
昭和四十四年十二月二十三日 第三種郵便物認可
発行所 東京都渋谷区神南一ノ一ノ一 岸記念体育会館内
日本バドミントン協会 定価三〇〇円



目下の話題はカーボネックスセブン。

強烈な反発力が評判のカーボネックス３につづきカーボン・シャフトの先端に、特殊アルミ合金のフレームを持つ新鋭ラケット、カーボネックス7の登場です。カーボン・シャフトの強力なバネ力と、特殊アルミ合金フレームとの力バランスが、すさまじいスマッシュを生みだします。スピードは抜群。そのうえ、スイート・スポットが広いので、シャトルを確実にとらえます。世界の一流プレイヤー達が、力から技へそしてまた力へと移ってきた現在、カーボネックス７はまさに時代への解答。すでにあるウッド・フレームとカーボンシャフトのカーボネックス３とともに、あなたの武器にしてください。

●日本初のこと——このラケットにはRとXの表示があります。Rはレギュラーでスナップ打法用。Xはエキスパートでフルスイング打法用です。

B-8300 Carbonex7

●カーボネックス セブン……￥7,700

YONEX